

歯科衛生士学科 実務経験のある教員による授業科目一覧

医療職業実践専門課程										
歯 科 衛 生 士 学 科										
科 目			授業1単位=15時間 実習1単位=30時間 臨地実習1単位=45時間							単位
			講義	実習	臨地実習	1年次	2年次	3年次	計	
分基 野礎	人間と生活	心 理 学	○				30		30	2
		コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論	○				30		30	2
小 計						0	60	0	60	4
専 門 基 礎 分 野	人体(歯・口腔を除く)の構造と機能	解 剖 学	○			30			30	2
		組 織 ・ 発 生 学	○			30			30	2
		生 理 学	○			30			30	2
		生 化 学	○			30			30	2
	歯・口腔の構造と機能	口 腔 解 剖 学	○			30			30	2
		歯 牙 解 剖 学	○			30			30	2
		口 腔 組 織 学	○			30			30	2
	疾病の成り立ち及び 回復過程の促進	微 生 物 学	○			30			30	2
		病 理 学	○				30		30	2
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間 と社会の仕組み	衛 生 ・ 公 衆 衛 生 学	○			30			30	2
		衛 生 統 計 学	○			30			30	2
		口 腔 衛 生 学	○			30			30	2
栄 養 学 I		○			30			30	2	
栄 養 学 II		○				30		30	2	
衛 生 行 政 ・ 社 会 福 祉		○				30		30	2	
小 計						360	90	0	450	30
専 門 分 野	臨床歯科医学	歯 科 衛 生 学 総 論	○			30			30	2
		歯 科 臨 床 概 論	○			30			30	2
		保 存 修 復 学	○			30			30	2
		歯 ・ 歯 髓 疾 患 論	○				30		30	2
		歯 周 療 法 学 I	○			30			30	2
		歯 周 療 法 学 II	○				30		30	2
		歯 科 補 綴 学	○				30		30	2
		口 腔 外 科 学	○			30			30	2
		小 児 歯 科 学	○			30			30	2
		歯 科 矯 正 学	○				30		30	2
		高 齢 者 歯 科 学 I	○			30			30	2
		高 齢 者 歯 科 学 II	○				30		30	2
		障 害 者 歯 科 学	○				30		30	2
		歯 科 放 射 線 学	○			30			30	2
	歯科予防処置論	歯 科 予 防 処 置 法 I	○	○		120			120	6
		歯 科 予 防 処 置 法 II	○	○			120		120	6
		歯 科 予 防 処 置 法 III	○					30	30	2
	歯科保健指導論	歯 科 保 健 指 導 I ①	○			30			30	2
		歯 科 保 健 指 導 II ①	○				30		30	2
		歯 科 保 健 指 導 III	○					30	30	2
		栄 養 指 導	○				30		30	2
	歯科診療補助論	歯 科 診 療 補 助 法 I	○	○		120			120	6
		歯 科 診 療 補 助 法 II	○	○			120		120	6
		歯 科 診 療 補 助 法 III	○					30	30	2
		歯 科 材 料 学	○			30			30	2
		臨 床 検 査 ・ 救 急 蘇 生 法	○				30		30	2
小 計						540	510	90	1140	68
分基 野基礎	総合科目	医 療 保 険 事 務	○			30			30	2
小 計						30	0	0	30	2
合 計						930	660	90	1680	104

成績の評価及び履修認定について

(授業科目履修の認定に係る学則)

第 23 条 授業科目の履修に関しては、授業時間数の 3 分の 2 以上出席し、試験に合格した者に、所定の単位を与える。ただし平素の学習状況又は論文等をもって試験に代えることができる。

- 2 試験の成績の評価は、秀、優、良、可又は不可とし、秀、優、良及び可を合格とする。
- 3 前項の秀は 90 点、優は 80 点、良は 70 点、可は 60 点割を基準とし、総合的な評価を行なう。

(GPA の導入について)

GPA (Grade Point Average) とは、履修した科目 1 単位あたりの成績平均点を算出する方法であり、GP に該当科目の単位数を乗じて合計し、総単位数で除して履修した科目 1 単位あたりの成績平均点を算出する。計算結果は小数点以下第 3 位を切り捨てして表記する。

1 成績評価の適切な取組の概要

成績評価については、「秀(90点)、優(80点)、良(70点)、可(60点)、不可」の 5 段階で評価し、可以上で合格となる。また、GP (Grade Point) としては、「秀は 4.0、優は 3.0、良は 2.0、可は 1.0、不可は 0.0」とする。

GPA 算出式

$$GPA = \frac{(\text{履修科目の単位数} \times \text{ポイント}) \text{の合計}}{\text{履修した講義の総単位数}}$$

2. GPA の種類

GPA は年度ごとに算出したもの (年度 GPA)、入学時から現在の学期まで通算したもの (累積 GPA) があり、その計算方法は次のとおり。

①年度 GPA

当該年度に履修し成績評価を受けた授業科目全体の GP 合計を当該年度の履修総単位数で除して算出する。

②累積 GPA

入学時から現在の学期までに履修し成績評価を受けた授業科目全体の GP 合計を入学時からの履修総単位数で除して算出する。

授 業 科 目 区 分		担当科目	体 育	単位数		選択 必修	
				時間数	60		
担当教員	山崎 絵美子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
学期区分	前期	水曜日 2時限		講義室等	上田城跡公園第二体育館		
	後期			授業形式	演習		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・集団で運動をすることにより基礎体力を維持するとともに、精神的充実感を得る。 ・運動を通して、自己アピールや表現力、コミュニケーション能力を高められるようにする。				・出席状況と授業態度により評価する。			
授業概要				教科書			
近年では社会が利便化するにつれ、人々の運動不足が懸念されている。本授業では、運動不足解消の一環となるよう球技を中心としたスポーツを通し学生の運動習慣を継続させる。				—			
				参考書			
				—			
履修上の注 意事項	1、10時55分には直接体育館に集合し、体操着に着替えておくこと。（私服不可） 2、上履きを持参すること。						
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	オリエンテーション／ドッジボール						
第2回	バスケットボール①						
第3回	バスケットボール②						
第4回	バスケットボール③						
第5回	バドミントン①						
第6回	バドミントン②						
第7回	バドミントン③						
第8回	ソフトバレー①						
第9回	ソフトバレー②						
第10回	ソフトバレー③						
第11回	卓球①						
第12回	卓球②						
第13回	卓球③						
第14回	ドッジボール①						
第15回	ドッジボール②						

シラバス

授 業 科 目 区 分	基礎分野	担当科目	科学的思考の基盤	単位数	2	選択 必修	必修
			生物学	時間数	30		
担当教員	師岡 さとみ			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
学期区分	前期	木曜日 3時限		講義室等	普通教室①		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
				・定期試験と授業出席 および授業内での小テスト			
授業概要				教科書			
				歯科衛生学シリーズ 生物学			
				医歯薬出版株式会社			
				参考書			
履修上の 注意事項							
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	生命とは何か						
第2回	細胞のつくりとはたらき						
第3回	細胞のさまざまな活動						
第4回	細胞の一生						
第5回	組織と器官						
第6回	生殖と減数分裂						
第7回	遺伝のしくみ						
第8回	DNA						
第9回	発生						
第10回	刺激の受容と伝達						
第11回	中枢神経系と末梢神経系						
第12回	内部環境と体液						
第13回	ホルモン						
第14回	自律神経						
第15回	生体防御						

シラバス

授 業 科 目 区 分	基礎分野	担当科目	科学的思考の基盤	単位数	2	選択 必修	必修
			化学	時間数	30		
担当教員	師岡 さとみ			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
学期区分	前期	木曜日 4時限		講義室等	普通教室①		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・物質の基本的な性質・構造・変化を理解する。				・定期試験と授業出席 および授業内での小テスト			
授業概要				教科書			
				歯科衛生学シリーズ 化学			
				医歯薬出版株式会社			
				参考書			
履修上の 注意事項							
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	原子の構造						
第2回	元素の周期律						
第3回	物質質量						
第4回	化学結合						
第5回	気体の法則						
第6回	気体の性質						
第7回	水溶液の濃度						
第8回	濃度の計算①						
第9回	濃度の計算②						
第10回	水溶液の性質						
第11回	酸とアルカリ						
第12回	有機化合物の分類						
第13回	有機化合物の性質・反応①						
第14回	有機化合物の性質・反応②						
第15回	高分子化合物						

シラバス

授 業 科 目 区 分	基礎分野	担当科目	人間と生活	単位数	2	選択 必修	必修
			心理学	時間数	30		
担当教員	宮崎 栄理子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		
実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	歯科診療所 勤務(4年)						
実務経験と授 業	歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な人の行動と心理に関する基本的な知識を養う。						
学期区分	前期	火曜日 3時限		講義室等	普通教室②		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・良好な人間関係を構築するために、人の行動と心理に関する基本的な知識と考え方を習得する。				・平常点 ・確認テスト ・定期試験			
授業概要				教科書			
・人間性の理解を深め、患者に対し適切な心理的配慮を実践する力を身につける。				歯科衛生学シリーズ 心理学			
				医歯薬出版株式会社			
				参考書			
履修上の 注意事項	・理解度確認のため小テストを実施する。 ・授業態度、小テスト成績についても加味し、総合的に評価する。						
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	知覚成立の基礎と特徴、知覚に影響を与える要因						
第2回	学習のプロセス、記憶のメカニズム						
第3回	動機付けのメカニズムと種類						
第4回	欲求とフラストレーション・葛藤との関連、人生や日常生活におけるストレス 【小テスト①】						
第5回	パーソナリティの特徴						
第6回	知能の発達と経年的変化						
第7回	思考、問題解決の方法						
第8回	ライフサイクルの各段階におけるこころの発達の特徴、こころの発達に関わる要因 人生や日常生活における支援(乳幼児～児童期)						
第9回	ライフサイクルの各段階におけるこころの発達の特徴、こころの発達に関わる要因 人生や日常生活における支援(児童期～青年期)						
第10回	ライフサイクルの各段階におけるこころの発達の特徴、こころの発達に関わる要因 人生や日常生活における支援(成人期、高齢期)						
第11回	集団の中の人間関係、対人関係に関わる心理的要因と行動 文化・慣習の違いによるコミュニケーションの在り方						
第12回	こころの健康に対する支援、歯科医療におけるコミュニケーションの意義						
第13回	小児および障害児者の歯科治療で用いられる行動療法と歯科衛生士の役割[小テスト②]						
第14回	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション、話し手と聞き手の役割[小テスト③④⑤]						
第15回	信頼関係の構築、傾聴姿勢・共感姿勢 【国家試験過去問題】						

シラバス

授 業 科 目 区 分	基礎分野	担当科目	人間と生活	単位数	2	選択 必修	必修
			倫理学	時間数	30		
担当教員	桂 木 恵			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
学期区分	前期	水曜日 1時限		講義室等	基礎実習室		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
①生命倫理に関する諸問題を学び、医療従事者になる心構えを持つことができる。 ②医療は、社会のあり様や歴史と深くかかわっていることを理解できる。 ③患者の人権を守ることの大切さを理解し自分の意見をまとめ、 他者に理解してもらえるように伝えることができる。				①レポート試験			
				②リアクションペーパー			
				③授業内の学習活動 上記①～③により総合的に評価する。			
授業概要				教科書			
①生命倫理に関する諸問題を、歴史的経緯や事象と関わらせて学ぶ。 ②医療は、社会のあり様と深く関わっていることを学ぶ。 ③生殖医療や安楽死などの意見が異なるテーマについて話し合うことを通じて 自分の考えを深める。 ④リアクションペーパーやレポートなどで自分の考えをまとめる。 ⑤テキストや様々な資料を活用し、視野を広げ考えを深める。				『歯科衛生学シリーズ 歯科医療倫理学』 (医歯薬出版株式会社)			
				参考書			
				①担当教員作成のパワーポイントや映像資料			
				②授業で紹介する参考図書や映像資料			
履修上の 注意事項	積極的に自分の考えを述べ、遠慮せずに質問する。いっぽう、他者の意見をよく聞いて、自分の考えを深める。						
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	オリエンテーション(なぜ医療倫理を学ぶのか)						
第2回	医療倫理学の原点①「なぜ人を殺してはいけないのか」						
第3回	医療倫理学の原点②(「ヒポクラテスの誓い」に学ぶ)						
第4回	医療と患者の人権①(インフォームドコンセントを考える)						
第5回	医療と患者の人権②(戦争への反省から生まれたニュルンベルク宣言とヘルシンキ宣言)						
第6回	生命の始まりと終焉①(バイオエシックスを考える)						
第7回	生命の始まりと終焉②(「命の選別」を考える)						
第8回	生命の始まりと終焉③(生殖医療を考える)						
第9回	生命の始まりと終焉④(「安楽死」を考える)						
第10回	生命の始まりと終焉⑤(脳死と臓器移植を考える)						
第11回	人権としての医療(生存権を中心に)						
第12回	歴史の中の歯科医療①(日本の近代化と歯科医療)						
第13回	社会の中の歯科医療②(災害・事故・国際化)						
第14回	これからの歯科医療を見すえて						
第15回	まとめ(歯科衛生士と医療倫理)						

シラバス

授業科目 区分	専門基礎 分野	担当科目	人間と生活 コミュニケーション論	単位数	2	選択 必修	必修
				時間数	30		
担当教員	宮崎 栄理子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		
実務家教員と しての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	歯科診療所 勤務(4年)						
実務経験と 授 業	・歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な知識とコミュニケーション技法を養う。						
学期区分	前期	木曜日 1、2時限(隔週)		講義室等	普通教室②		
	後期			授業形式	講義・演習		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・医療を提供する者として、より良いケアや支援を実現するために、必要なコミュニケーション技法を身につける。				・出席状況 ・授業態度 ・定期試験			
授業概要				教科書			
・自信を持って実習に臨み、就職してから生き生きと働き続けることを願い「ケアのプロセス」としてのコミュニケーション力を修得する。 ・対人関係を構築する力を養うために、感じる力・考える力を磨き、思いやりをもって表現する力を伸ばせるよう、ロールプレイングを取り入れる。				歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション			
				株式会社 ウイネット			
				参考書			
履修上の 注意事項							
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	1-1 医療・介護・保健におけるコミュニケーションを考える視点とその役割						
第2回	2-1 好感・安心感を高めるためのコミュニケーション①(非言語メッセージ)						
第3回	2-2 好感・安心感を高めるためのコミュニケーション②(言語メッセージと敬語)						
第4回	2-2 好感・安心感を高める応対表現						
第5回	3-1 相手を受容し、共感する						
第6回	3-1 3.交流分析、4.相手と意見が違う場合のコミュニケーション(補足4-2 アサーティブなコミュニケーション)						
第7回	3-1 苦情・クレーム対応のスキル						
第8回	3-2 わかりやすく説明・提案し、同意を確認する						
第9回	3-3 相手のやる気を引き出す(コーチングコミュニケーション)						
第10回	3-3 コーチングコミュニケーションのステップと表現						
第11回	3-4 配慮ある支援が必要な被援助者とのコミュニケーション						
第12回	3-4 配慮ある支援が必要な被援助者とのコミュニケーション(補足3-4 認知症、5-3 終末期ケア)						
第13回	4-1 チームの一員として仕事を進める						
第14回	4-1 より良いチームワークのためのマナーとコミュニケーション						
第15回	筆記試験						

シラバス

授 業 科 目 区 分	基礎分野	担当科目	人間と生活 英語	単位数	4	選択 必修	必修
				時間数	60		
担当教員	井戸 和宏			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
学期区分	前期	金曜日 4時限		講義室等	普通教室①		
	後期	金曜日 4時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
① 歯科衛生に関連のある英単語や英文の内容を理解しながら、英語に親しむ。 ② たくさん発音練習をして、日本語にない発音が正しく発音できるようになる。 ③ 音読練習をして適度なテンポ・リズムで会話文が読めるようになる。 ④ 自分のことを表現、紹介する英文を考え、覚える。 ⑤ ウォーム・アップやキーセンテンスの英文の文法構造を理解し、英文を意味の塊ごとに理解する力を身につける。				・小テスト ・筆記試験			
				教科書			
				歯科衛生学シリーズ 歯科英語 医歯薬出版株式会社			
授業概要				参考書			
履修上の 注意事項							
授業の計画							
〈前期〉				〈後期〉			
第1回	授業の進め方について／1. 電話での予約			第1回	11.シーラント①		
第2回	1. 電話での予約			第2回	11.シーラント②		
第3回	2. 薬の依頼			第3回	12.フッ素治療		
第4回	3. 救急の予約			第4回	11.～12.の復習		
第5回	4. 国民健康保険			第5回	13.子供のための歯ブラシ指導		
第6回	1.～4.の復習			第6回	14.大人のための歯ブラシ指導		
第7回	5. 患者さんに症状を説明してもらう			第7回	15.患者さんへの診療後の指示①		
第8回	6. 病歴を尋ねる			第8回	15.患者さんへの診療後の指示②		
第9回	7. 歯周病①			第9回	13.～15.の復習		
第10回	7. 歯周病②			第10回	16.治療後		
第11回	5.～7.の復習			第11回	17.米国の歯科診療所訪問①		
第12回	8. 妊娠			第12回	17.米国の歯科診療所訪問②		
第13回	9. なぜクリーニングが必要か			第13回	歯科衛生士の仕事とは、米国の場合①		
第14回	10.インフォームドコンセント①			第14回	歯科衛生士の仕事とは、米国の場合②		
第15回	10.インフォームドコンセント②			第15回	歯科衛生士の仕事とは、米国の場合③		

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門基礎 分野	担当科目	人体(歯・口腔を除く)の構造と機能	単位数	2	選 択 必 修	必修
			解剖学	時間数	30		
担当教員	田中 利幸			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員と しての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	歯科診療所 勤務(6年)						
	歯科診療所 開業(S63.4～現在に至る)						
実務経験と授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な人体の構造と機能の知識を養う。						
学期区分	前期	金曜日 3時限		講義室等	普通教室①		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・人体の構造と機能を理解し、歯科医療に携わる歯科衛生士として必要な基礎 学力をつけることを目標とする。				・筆記試験			
授業概要				教科書			
・毎回プレテストとして指定された項目について調べ学習を行う。 ・人体の構造と機能に関して、項目別の講義を行う。				歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学			
				歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学			
				参考書			
				みえる人体 南江堂			
履修上の 注意事項							
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	解剖学概論						
第2回	骨格系 (頭蓋骨、体幹骨)						
第3回	骨格系 (上肢骨、下肢骨)						
第4回	筋系 (体の各部位の筋系)						
第5回	内臓系 (消化器系、呼吸器系)						
第6回	内臓系 (生殖器、内分泌系)						
第7回	脈管系 (血管系、心臓、動脈系)						
第8回	脈管系 (静脈系、胎児の循環系、リンパ系、脾臓)						
第9回	神経学 (神経系の構成、中枢神経)						
第10回	神経学 (脳脊髄膜、脳の血管)						
第11回	神経学 (末梢神経系、神経系の主な伝導路)						
第12回	感覚器 (視覚器、平衡感覚器)						
第13回	感覚器 (味覚器、嗅覚器)						
第14回	感覚器 (外皮)						
第15回	まとめ						

シラバス

授業科目 区分	専門基礎 分野	担当科目	人体(歯・口腔を除く)の構造と機能	単位数	2	選択 必修	必修
			組織・発生学	時間数	30		
担当教員	中島 洋子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	歯科大学 保存講座(歯内療法学講座)勤務(2年)						
	歯科診療所 勤務(H4.2～現在に至る)						
実務経験と授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な人体の最小単位である細胞の構造や機能およびヒトの発生および口腔や歯の発生についての知識を養う。						
学期区分	前期	木曜日 2時限		講義室等	普通教室①		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・人体の最小単位である細胞の構造や機能、人体の正常組織についての理解、ヒトの発生および口腔や歯の発生についての理解を深め、学習する。				・出席率・授業態度 ・レポート(課題評価) ・試験成績			
授業概要				教科書			
・組織・発生に関する基本的知識を講義形式で学ぶ。 ・理解を深めるため、レポート提出を行う。				歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学			
				歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学			
				医歯薬出版株式会社			
				参考書			
				みえる人体			
				南江堂			
履修上の 注意事項							
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	概論						
第2回	細胞について						
第3回	細胞内小器官						
第4回	細胞の一生						
第5回	組織について(上皮組織)						
第6回	組織について(支持組織)						
第7回	組織について(筋組織・神経組織)						
第8回	発生学(ヒトの発生について)						
第9回	発生学(ヒトの発生、成長、発育)						
第10回	発生学(胎児の成長、出産について)						
第11回	発生学(顔面と口腔の発生)						
第12回	発生学(歯の発生)						
第13回	発生学(歯周組織の発生)						
第14回	小テスト						
第15回	まとめ						

シラバス

授業科目 区分	専門基礎 分野	担当科目	人体(歯・口腔を除く)の構造と機能	単位数	2	選択 必修	必修
			生理学	時間数	30		
担当教員	小池 吉彦			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員と しての経歴	歯科医師、博士(歯学)の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	歯科大学 臨床検査学研究室勤務(1年)						
	歯科診療所勤務(11年)						
	歯科診療所(継承)開業(H29.2～現在に至る)						
実務経験と 授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な生体機能・口腔の諸機能の知識とそれを説明する能力を養う。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室①		
	後期	水曜日 4時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・講義形式良質な歯科医療を提供するため、生体機能の基本原則をふまえた上で個々の生体機能・口腔の諸機能を他の科目で得られる知識と関連付けて理解し、一般の人にわかりやすく説明できる能力を修得する。				・定期試験 ・出席状況 ・態度			
授業概要				教科書			
・人体の生命維持に重要な器官系を取り上げ、その構造と機能を習得し、個々の器官系間での連携を総合的に理解できるよう解説する。 ・口腔生理学では口腔内機能が生命活動と深く結びついていることを示し、口腔を示し、口腔機能の重要性を解説する。				歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学 歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学			
				参考書			
				みえる人体 南江堂			
履修上の 注意事項	・生理学、口腔生理学を合わせ、成績評価を行う。						
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	生理学Ⅰ編 1章 細胞						
第2回	生理学Ⅱ編 4章 血液 循環						
第3回	生理学Ⅱ編 6章 呼吸						
第4回	生理学Ⅱ編 2章 筋、5章 神経						
第5回	生理学Ⅱ編 7章 感覚						
第6回	生理学Ⅱ編 3章 消化と吸収						
第7回	生理学Ⅱ編 8章 排泄、9章 体温						
第8回	生理学Ⅱ編 10章 内分泌、11章 生殖						
第9回	生理学 中間試験						
第10回	口腔生理学Ⅱ編 3章 歯と歯周組織の生理						
第11回	口腔生理学Ⅰ編 5章 咬合と咀嚼						
第12回	口腔生理学Ⅰ編 6章 吸引 嚥下 口呼吸 口臭						
第13回	口腔生理学Ⅰ編 3章、4章 歯と口腔の感覚						
第14回	口腔生理学Ⅰ編 8章 唾液						
第15回	口腔生理学Ⅰ編 7章 発声						

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門基礎 分野	担当科目	人体(歯・口腔を除く)の構造と機能 生化学	単位数	2	選 択 必 修	必 修
				時間数	30		
担当教員	安齋 理江			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員と しての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	大学歯学部 勤務(2年)						
	歯科診療所 勤務(H3.～現在に至る)						
実務経験と 授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な生体を構成している物質についての知識を養う。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室①		
	後期	木曜日 2時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・生体を構成している物質について学ぶ。食品から摂取する栄養素の代謝過程を学び、生命現象との関わりを理解する。				・小テスト			
				・平常点			
				・定期試験			
授業概要				教科書			
・人体の代謝と機能に関する基本的知識が修得できるよう講義を行う。 ・人体の生命現象を分子レベルの化学反応から理解するために、随時小テストを行う。				歯科衛生学シリーズ 栄養学・生化学・口腔生化学			
				医歯薬出版株式会社			
				参考書			
				みえる人体 南江堂			
履修上の 注意事項							
授業の計画							
〈後期〉							
第1回	生体における化学反応	糖質の代謝	解糖	クエン酸回路			
第2回	糖質の分類【小テスト】	クエン酸回路	電子伝達系				
第3回	β酸化	アミノ酸の分類					
第4回	必須アミノ酸【小テスト】	タンパク質の分類	代謝				
第5回	タンパク質の合成	ホメオスタシス					
第6回	性感染症について	血液のpH	血糖値について				
第7回	日本の国柄、栄養の基礎、食生活とは						
第8回	現代の食生活の概要	食品成分表について	【小テスト】				
第9回	国民健康・栄養調査	年末年始の行事食					
第10回	栄養素の吸収						
第11回	日本人の食事摂取基準						
第12回	脂肪エネルギー比率	基礎代謝、身体活動レベル					
第13回	食事摂取基準	各値の意味について					
第14回	ビタミンの働き	欠乏症					
第15回	無機質の働き						

シラバス

授業科目 区 分	専門基礎 分野	担当科目	歯・口腔の構造と機能 口腔解剖	単位数	2	選択 必修	必修
				時間数	30		
担当教員	有賀 隆			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員 としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	大学歯学部付属病院 勤務(1年)						
	歯科診療所 勤務(5年)						
	歯科診療所 開業(H27.2～現在に至る)						
実務経験と 授 業	歯科衛生士の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯および口腔を形成する諸器官の微細構造についての知識を養う。						
学期区分	前期	火曜日 1、2時限(隔週)		講義室等	普通教室①		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・歯科衛生士として必要な歯および口腔を形成する諸器官の微細構造、 顔面・口腔組織について理解する。				・筆記試験85点 ・小テスト15点(3回分合計点150点満点の上2桁)			
授業概要				教科書			
・口腔を三次元的イメージで理解できるよう、口腔領域の骨、筋、 脈管などを項目別に講義する。				歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版株式会社			
				参考書			
履修上の 注意事項	家庭学習をしっかりと行うこと。						
	確認テストの復習を行い、小テストへ備えること。						
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	口腔とは 口唇と頬 口腔前庭						
第2回	固有口腔 口峡 舌						
第3回	唾液腺 咽頭						
第4回	頭蓋骨						
第5回	上顎骨						
第6回	口蓋骨						
第7回	下顎骨 舌骨						
第8回	顎関節						
第9回	表情筋						
第10回	舌骨上筋 咀嚼筋						
第11回	口腔付近に分布する動脈(総頸動脈、外頸動脈)						
第12回	口腔付近に分布する静脈(内頸静脈、頭頸部の動脈と静脈の差異)						
第13回	頭頸部のリンパ系						
第14回	神経(脳神経)						
第15回	神経(脊髄神経、自律神経)						

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門基礎 分野	担当科目	歯・口腔の構造と機能 歯牙解剖	単位数	2	選択 必修	必修
				時間数	30		
担当教員	滝澤 雄一			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員 としての経 歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	総合病院 歯科臨床研修(1年)						
	歯科診療所 勤務(7年)						
	歯科診療所 開業(H30.4～現在に至る)						
実務経験と 授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯牙の形態および特徴についての知識を養う。						
学期区分	前期	水曜日 4時限		講義室等	普通教室①		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・歯科衛生士として必要な歯牙の形態および特徴について理解する。				・提出物(スケッチ・暫間被覆冠) ・筆記試験			
授業概要				教科書			
・講義				歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学			
・歯牙のスケッチ				医歯薬出版株式会社			
・暫間被覆冠の作製実習				参考書			
履修上の 注意事項							
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	歯の役割、機能、基本的な形態について						
第2回	歯の表示法、記号、用語について						
第3回	歯根の形態、根管の形態、ミュールライターの三徴候について						
第4回	中切歯、側切歯、犬歯の形態学的特徴について／上顎中切歯のスケッチ						
第5回	小臼歯の形態学的特徴について／上顎第1小臼歯のスケッチ						
第6回	上顎大臼歯の形態学的特徴について／上顎第一大臼歯のスケッチ						
第7回	下顎大臼歯の形態学的特徴について／下顎第一大臼歯のスケッチ						
第8回	乳歯について						
第9回	特色のある歯の形態について						
第10回	歯列と咬合について						
第11回	暫間被覆冠作製実習						
第12回	暫間被覆冠作製実習						
第13回	暫間被覆冠作製実習						
第14回	暫間被覆冠作製実習						
第15回	暫間被覆冠作製実習						

シラバス

授業科目 区分	専門基礎 分野	担当科目	歯・口腔の構造と機能		単位数	2	選択 必修	必修
			口腔組織学		時間数	30		
担当教員	中島 洋子				受講学科	歯科衛生士学科		
					学 年	1年		
実務家教員と としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。							
	歯科大学 保存講座(歯内療法学講座)勤務(2年)							
	歯科診療所 勤務(H4.2～現在に至る)							
実務経験と 授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯と歯周組織の構造と機能についての知識を養う。							
学期区分	前期				講義室等	普通教室①		
	後期	月曜日 2時限			授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
・歯と歯周組織の構造、機能を理解する。 ・口腔組織や歯の発生についての復習および構造的な理解を深める。					出席率・授業態度・レポート(課題評価)・ 試験成績			
授業概要					教科書			
・口腔組織の知識を講義形式で学ぶ。 ・理解の確認のため小テストを行う。					歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版株式会社			
					参考書			
					やさしい治癒のしくみとはたらき 医歯薬出版株式会社			
履修上の注 意事項								
授業の計画								
〈後期〉								
第1回	概論							
第2回	エナメル質							
第3回	象牙質							
第4回	象牙質							
第5回	歯髄							
第6回	セメント質							
第7回	第1回～第6回の復習 小テスト							
第8回	歯根膜							
第9回	歯槽骨							
第10回	歯肉							
第11回	歯肉							
第12回	歯および歯周組織の発生について							
第13回	歯の萌出について							
第14回	小テスト							
第15回	まとめ							

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門基礎 分野	担当科目	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	単位数	2	選択 必修	必修
			微生物学	時間数	30		
担当教員	下村 定資			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員と しての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	歯科大学 口腔外科学講座 勤務(2年)						
	歯科診療所 勤務(2年)						
	歯科診療所 開業(H3.9～現在に至る)						
実務経験と 授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な微生物の概要についての知識を養う。						
学期区分	前期	水曜日 3時限		講義室等	普通教室①		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・微生物の概要を理解し、口腔内に常在する微生物について把握する。				・小テスト ・レポート ・定期試験			
授業概要				教科書			
・微生物の基本的性状、病原性と感染により生じる病態および生体の防御機構としての免疫に関する基本的内容を講義する。 ・知識の定着と、理解を深める目的でレポートを課す。				歯科衛生学シリーズ 微生物学 第2版 医歯薬出版株式会社			
				参考書			
履修上の注 意事項							
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	微生物学の意義						
第2回	微生物の一般性状 1						
第3回	微生物の一般性状 2						
第4回	感染論 1						
第5回	感染論 2						
第6回	生体の免疫反応 1						
第7回	生体の免疫反応 2						
第8回	生体の免疫反応 3						
第9回	消毒と滅菌 化学療法						
第10回	主な病原微生物 1						
第11回	主な病原微生物 2						
第12回	主な病原微生物 3						
第13回	口腔微生物の由来と定着 種類 分類						
第14回	歯垢と唾液						
第15回	口腔疾患と微生物						

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門基礎 分野	担当科目	疾病の成り立ち及び回復過程の促進		単位数	2	選 択 必 修	必 修
			薬理学		時間数	30		
担当教員	○飯島 裕也／岩下 靖太郎／小宮山 拓実／斎藤 厚太			受講学科	歯科衛生士学科			
				学 年	1年			
実務家教員と しての経歴	薬剤師の資格を有し、以下の実務経験がある。							
	調剤薬局 勤務(H18.4～現在に至る)							
実務経験と 授 業	薬剤師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な薬物の生体内での作用についての知識を養う。							
学期区分	前期				講義室等	普通教室①		
	後期	火曜日 3時限			授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
・薬物が生体内でどのように作用し、どのような治療学的意義を持つのかという 基礎知識の習得。					・出席状況・授業態度 ・レポート課題 ・単位認定試験			
授業概要					教科書			
教科書を中心とした講義により薬理学の基礎を習得する。					歯科衛生学シリーズ 薬理学 第2版 医歯薬出版株式会社			
					参考書			
履修上の注 意事項								
授業の計画								
〈後期〉								
第1回	I 編 総論	1章 薬物の作用			岩下			
第2回	I 編 総論	2章 薬物動態			岩下			
第3回	I 編 総論	3章 薬物の適用方法の種類と特徴			岩下			
第4回	I 編 総論	4章 薬物の作用に影響を与える要因			飯島			
第5回	I 編 総論	5章 薬物の副作用・有害作用			飯島			
第6回	I 編 総論	6章 医薬品を適用する際の注意			飯島			
第7回	I 編 総論	7章 医薬品の取り扱い		8章 薬物と法律		飯島		
第8回	Ⅱ編 各論	1章 ビタミンとホルモン		2章 末梢神経に作用する薬物		小宮山		
第9回	Ⅱ編 各論	3章 中枢神経に作用する薬物			小宮山			
第10回	Ⅱ編 各論	4章 循環器系に作用する薬物		5章 腎臓に作用する薬物		小宮山		
第11回	Ⅱ編 各論	6章 呼吸器系に作用する薬物		7章 消化器系に作用する薬物		小宮山		
第12回	Ⅱ編 各論	8章 血液に作用する薬物 ～		10章 悪性腫瘍と薬		斎藤		
第13回	Ⅱ編 各論	11章 代謝性疾患治療薬 ～		13章 痛みと薬		斎藤		
第14回	Ⅱ編 各論	14章 局所麻酔薬		15章 抗感染症薬		斎藤		
第15回	Ⅱ編 各論	16章 消毒に作用する薬 ～		20章 顎・口腔粘膜疾患と薬		斎藤		

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門基礎 分野	担当科目	疾病の成り立ち及び回復過程の促進		単位数	2	選択 必修	必修
			病理学		時間数	30		
担当教員	中島 洋子				受講学科	歯科衛生士学科		
					学 年	2年		
実務家教員と しての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。							
	歯科大学 保存講座(歯内療法学講座)勤務(2年)							
	歯科診療所 勤務(H4.2～現在に至る)							
実務経験と 授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な病気の原因や成り立ちについての知識を養う。							
学期区分	前期	月曜日 2時限			講義室等	普通教室②		
	後期				授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
・病気の原因や成り立ちについて、病理組織学的に理解を深め、治療やケアを行う上で、その知識が役立つものになるよう学習する。 ・口腔に生じる様々な病気について理解し、他教科の学習と併せて理解を深めるよう学習する。					・出席率			
					・授業態度			
					・レポート(課題評価)			
					・試験成績			
授業概要					教科書			
・前半は身体全体の知識、後半は口腔に関する基本的知識を講義形式で学ぶ。					歯科衛生士学シリーズ 病理学・口腔病理学			
					医歯薬出版株式会社			
					参考書			
履修上の注意 事項								
授業の計画								
〈前期〉								
第1回	概論							
第2回	病因論							
第3回	遺伝性疾患と奇形							
第4回	循環障害							
第5回	代謝障害と退行性病変							
第6回	増殖と修復(進行性病変)							
第7回	炎症							
第8回	免疫応答異常							
第9回	腫瘍							
第10回	口腔病理学(歯の発育異常、歯の損傷と着色、う蝕)							
第11回	口腔病理学(象牙質・歯髄複合体の病変)							
第12回	口腔病理学(歯周組織の病態)							
第13回	口腔病理学(口腔粘膜の病変、嚢胞と腫瘍、口腔がん)							
第14回	口腔病理学(顎骨の病変、唾液腺の病変、口腔領域の奇形)							
第15回	口腔病理学(口腔組織の加齢変化)～まとめ～							

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門基礎 分野	担当科目	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み		単位数	2	選択 必修	必修
			衛生・公衆衛生学		時間数	30		
担当教員	三井 久史				受講学科	歯科衛生士学科		
					学 年	1年		
実務家教員と しての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。							
	大学歯学部 補綴学教室 勤務(2年)							
	企業(工場) 歯科診療所 勤務(1年) 総合病院 口腔外科 勤務(2年)							
	歯科診療所 開業(S59.8～現在に至る)							
実務経験と 授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な衛生学・公衆衛生学についての知識を養う。							
学期区分	前期				講義室等	普通教室①		
	後期	木曜日 3時限			授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
口腔衛生学の基礎として、衛生学・公衆衛生学の概要を知り、公衆衛生活動の基礎的な知識を習得する。					・小テスト ・レポート ・定期試験			
授業概要					教科書			
各章に関連した国家試験問題を解説し理解を深める。					歯科衛生学シリーズ 保健生態学			
					医歯薬出版株式会社			
					参考書			
					歯科衛生学シリーズ 微生物学第2版 医歯薬出版株式会社			
履修上の 注意事項								
授業の計画								
〈前期〉								
第1回	Ⅰ 編 1章 総論							
第2回	Ⅰ 編 2章 疫学							
第3回	Ⅰ 編 3章 人口							
第4回	Ⅰ 編 4章 健康と環境							
第5回	Ⅰ 編 5章 感染症							
第6回	Ⅰ 編 6章 食品と健康							
第7回	Ⅲ編 1章 地域保健・公衆衛生							
第8回	Ⅲ編 2章 母子保健							
第9回	Ⅲ編 3章 学校保健							
第10回	Ⅲ編 4章 成人保健							
第11回	Ⅲ編 5章 産業保健							
第12回	Ⅲ編 6章 老人(高齢者)保健							
第13回	Ⅲ編 7章 精神保健							
第14回	Ⅲ編 8章 災害時の歯科保健 9章 国際保健							
第15回	まとめ							

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門基礎 分野	担当科目	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 衛生統計学	単位数	2	選択 必修	必修
				時間数	30		
担当教員	佐藤 治道			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員と しての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	歯科診療所 勤務(6年)						
	歯科診療所 開業(H19.5～現在に至る)						
実務経験と授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な医療統計学の基本知識を養う。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室②・基礎実習室		
	後期	水曜日 2時限		授業形式	講義・実習		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
歯科衛生分野で必要となる医療統計学の基本を身につけ、実践することを目標にする。				・筆記試験			
				・出席・授業態度			
				・課題の到達度・提出度			
授業概要				教科書			
・歯科衛生分野で必要な保健医療情報の収集と取捨選択 ・収集したデータの処理と分析 ・情報の保護と倫理				歯科衛生学シリーズ 保健情報統計学・保健生態学			
				参考書			
履修上の 注意事項							
授業の計画							
〈後期〉							
第1回	1章 保健情報と保健統計						
第2回	2章 保健情報と疫学①						
第3回	2章 保健情報と疫学②						
第4回	2章 保健情報と疫学③						
第5回	3章 歯科疾患の指数①						
第6回	3章 歯科疾患の指数②						
第7回	3章 歯科疾患の指数③						
第8回	3章 歯科疾患の指数④						
第9回	4章 保健情報の分析手順①						
第10回	4章 保健情報の分析手順②						
第11回	5章 保健統計の方法①						
第12回	5章 保健統計の方法② / 6章 保健情報の分析演習①						
第13回	6章 保健情報の分析演習②						
第14回	7章 情報の保護と倫理						
第15回	まとめ						

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門基礎 分野	担当科目	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	単位数	2	選択 必修	必修
			口腔衛生学	時間数	30		
担当教員	布施 佑磨			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員と しての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	総合病院勤務(8年)						
	歯科診療所 開業(H29.4～現在に至る)						
実務経験と 授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な口腔衛生の実際に関する知識と技術を養う。						
学期区分	前期	木曜日 1時限		講義室等	普通教室①		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・歯科疾患予防の基礎として口腔衛生学を十分に理解し、歯科における公衆衛生指導の実際についての知識を習得する。				・小テスト ・レポート ・定期試験			
授業概要				教科書			
・講義形式で歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を習得し、歯科疾患の予防能力を高める態度を養う。 ・唾液リスクテスト(分泌量、pH、緩衝能)について実習を行う。				歯科衛生学シリーズ 保健生態学 医歯薬出版株式会社			
				参考書			
履修上の 注意事項							
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	保健生態学、口腔衛生学、予防医学の概念						
第2回	歯・口腔の健康と予防						
第3回	全身と歯、口の発育、全身疾患との関連						
第4回	歯科疾患の疫学、歯、口腔の付着物・沈着物						
第5回	口腔清掃・歯磨剤・洗口剤						
第6回	う蝕の予防(1)						
第7回	う蝕の予防(2)						
第8回	う蝕活動性、う蝕の予防法						
第9回	フッ化物の応用(1)						
第10回	フッ化物の応用(2)						
第11回	口腔衛生学実習(唾液リスクテスト)						
第12回	歯周疾患の予防						
第13回	その他の疾患、異常の予防						
第14回	まとめ(1)						
第15回	まとめ(2)						

シラバス

授業科目 区分	専門基礎 分野	担当科目	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	単位数	2	選択 必修	必修
			栄養学Ⅰ	時間数	30		
担当教員	安齋 理江			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員と しての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	大学歯学部 勤務(2年)						
	歯科診療所 勤務(H3.～現在に至る)						
実務経験と授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な栄養・食事指導についての知識を養う。						
学期区分	前期	火曜日 3時限		講義室等	基礎実習室		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・栄養学の概要を学び、歯科保健指導および歯科衛生教育を行うのに必要な 栄養・食事指導についての知識を学ぶ。				・小テスト ・レポート ・定期試験			
授業概要				教科書			
・栄養素の消化吸収と栄養的はたらきについて講義形式で学ぶ。 ・小テストで知識の確認と定着を図る。				歯科衛生学シリーズ 栄養学・生化学・口腔生化学 医歯薬出版株式会社			
				参考書			
				食品成分表(貸出)			
				実教出版			
履修上の 注意事項							
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	栄養の基礎知識						
第2回	食生活と栄養						
第3回	栄養素の消化・吸収						
第4回	食事摂取基準						
第5回	基礎代謝						
第6回	日本人の食事摂取基準						
第7回	栄養素の働き、糖質の栄養的意味						
第8回	タンパク質の栄養的意味						
第9回	脂質の栄養的意味						
第10回	ビタミンの栄養的意味						
第11回	ミネラルの栄養的意味						
第12回	水の栄養的意味						
第13回	食物繊維の栄養的意味						
第14回	食生活と栄養						
第15回	食べ物と健康、食品成分表						

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門基礎 分野	担当科目	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み		単位数	2	選択 必修	必修
			栄養学Ⅱ		時間数	30		
担当教員	安齋 和憲				受講学科	歯科衛生士学科		
					学 年	2年		
実務家教員と しての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。							
	病院 勤務(3年)							
	歯科診療所 勤務(R4.3～現在に至る)							
実務経験と授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な栄養・食事指導についての知識を一層養う。							
学期区分	前期	木曜日 3時限			講義室等	普通教室②		
	後期				授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
・栄養学の概要を学び、歯科保健指導および歯科衛生教育を行うために必要な栄養について一層学ぶ。					・小テスト ・レポート ・定期試験			
授業概要					教科書			
・講義形式で栄養素の働きについて学ぶ。					歯科衛生学シリーズ 栄養と代謝			
・歯科衛生士として代用甘味料に関する知識を身につけ、理解を深めるためにレポートを作成する。					医歯薬出版株式会社			
					参考書			
					食品成分表(貸出)			
					実教出版			
履修上の 注意事項								
授業の計画								
〈前期〉								
第1回	生体の構成要素、細胞の役割							
第2回	生体における水							
第3回	生体構成成分と栄養素							
第4回	生体における化学反応、消化と吸収							
第5回	酸素の運搬と二酸化炭素の排出							
第6回	代謝							
第7回	糖質と脂質の代謝、エネルギー代謝の全体像							
第8回	糖質の代謝とエネルギーの生成							
第9回	脂質の代謝とエネルギーの生成							
第10回	タンパク質とアミノ酸の代謝、タンパク質の加水分解							
第11回	アミノ酸の代謝分解							
第12回	タンパク質の合成							
第13回	生体における恒常性の維持							
第14回	ホルモン系と自律神経系							
第15回	まとめ							

シラバス

授 業 科 目 区 分	専 門 基 礎 分 野	担 当 科 目	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	単 位 数	2	選 択 必 修	必 修
			衛 生 行 政・社 会 福 祉	時 間 数	30		
担 当 教 員	宮 崎 栄 理 子			受 講 学 科	歯 科 衛 生 士 学 科		
				学 年	2 年		
実 務 家 教 員 と し て の 経 歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	歯科診療所 勤務(4年)						
実 務 経 験 と 授 業	歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な法律・制度に関する基本的知識を養う。						
学 期 区 分	前 期			講 義 室 等	普 通 教 室 ②		
	後 期	集 中 講 義		授 業 形 式	講 義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・日本の保健・医療・福祉制度と医事法制を理解し歯科衛生のあり方を考える態度を養うために歯科衛生士に必要な法律・制度に関する基本的知識を習得する。				・出席状況・授業態度 ・小テスト ・筆記試験			
授業概要				教科書			
・衛生行政の仕組みや保健医療、福祉に関連する法規について学ぶ。 ・社会福祉や社会保険制度における医療保障の諸対策について、理解を深める。 ・毎回小テスト、国家試験過去問題に取り組む。				歯科衛生学シリーズ 保健・医療・福祉の制度			
				医歯薬出版株式会社			
				参考書			
履 修 上 の 注 意 事 項	・各自小テストの内容を復習し、知識の習得に努めること。						
授業の計画							
〈 後 期 〉							
第 1 回	1章 歯科衛生士と法律①はじめに②わが国の医療制度						
第 2 回	1章 歯科衛生士と法律③医療法④歯科医師法						
第 3 回	1章 歯科衛生士と法律⑤歯科衛生士法						
第 4 回	1章 歯科衛生士と法律⑤歯科衛生士法⑥歯科技工士法						
第 5 回	2章 医療関係職種						
第 6 回	3章 その他の関係法規①地域包括ケアシステム②地域保健に関する法律						
第 7 回	3章 その他の関係法規③歯科口腔保健法④薬事関連法規⑤その他の衛生法規						
第 8 回	4章 社会保障①社会保障						
第 9 回	4章 社会保障②社会保険 1.医療保険						
第 10 回	4章 社会保障②社会保険 2.介護保険						
第 11 回	4章 社会保障②社会保険 2.介護保険						
第 12 回	4章 社会保障②社会保険 3.年金保険						
第 13 回	4章 社会保障②社会保険 4.労働法規と労働保険						
第 14 回	4章 社会保障③社会福祉 5章 医療の動向						
第 15 回	総括						

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	歯科衛生士概論	単位数	2	選択 必修	必修
			歯科衛生学総論	時間数	30		
担当教員	宮崎 栄理子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	歯科診療所 勤務(4年)						
実務経験と授 業	・歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な保健医療人としての基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を習得するための基本的知識を養う。						
学期区分	前期	火曜日 1・2時限(隔週)			講義室等	普通教室①	
	後期				授業形式	講義	
授業のねらい、目標					成績評価の方法		
・人々の健康づくりを支援し、口腔健康管理を担う専門職としての基本的態度を理解し、関連する知識・技術・態度を身につけるために論理的な思考の基礎を習得する。					・出席状況 ・授業態度 ・定期試験		
授業概要					教科書		
・対象とする人のニーズの把握の仕方、歯科衛生業務の考え方や行動の仕方を理解する。 ・倫理的な視点と科学的な裏付けをもって仕事をするものの意味を考える。					歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論		
					医歯薬出版株式会社		
					参考書		
履修上の 注意事項	・各章の学習終了後、理解度確認のため小テストを実施する。(全9回) ・授業態度、小テスト成績についても加味し、総合的に評価する。						
授業の計画							
〈前 期〉							
第1回	学習オリエンテーション						
第2回	1-①歯科衛生学		1-②歯科衛生と健康		【#1小テスト】		
第3回	1-③歯科衛生活動の対象 1-④歯科衛生活動の領域						
第4回	2	歯科衛生の歴史		8	海外における歯科衛生士		
第5回	3-①予防の概念		【#2小テスト】				
第6回	3-②歯科衛生の考え方 -科学的思考-						
第7回	4	歯科衛生過程		【#3小テスト】			
第8回	5-①歯科衛生士法と歯科衛生士業務						
第9回	5-②歯科衛生士の役割		【#4小テスト】				
第10回	5-③関連法規		【#5小テスト】				
第11回	5-④安全管理		【#6小テスト】				
第12回	6-①倫理の必要性		6-②医の倫理と患者の権利		6-③歯科衛生と倫理		【#7小テスト】
第13回	6-④対象の自己決定権の尊重		6-⑤インフォームド・コンセント		6-⑥倫理の適用		【#8小テスト】
第14回	7-①歯科衛生活動の現況 7-②歯科衛生活動の場		【#9小テスト】				
第15回	7-③歯科衛生士と組織		【国家試験過去問題】				

シラバス

授業科目 区分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学	単位数	2	選択 必修	必修
			歯科臨床概論	時間数	30		
担当教員	大野 秀徳			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	大学歯学部 矯正学教室 勤務(8年)						
	歯科診療所(矯正)開業(H10.7～現在に至る)						
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯科医学や臨床知識を養う。						
学期区分	前期	金曜日 1時限		講義室等	普通教室①		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
1.歯科衛生士学生のための歯科医学や臨床への入門				・授業中の態度			
2.歯科臨床のシステムや診療の流れを教え、その中で活躍する歯科衛生士の役割を自覚してもらう。診療の流れ、医療人の心得等歯科臨床に関わる全てのことを学んでもらう。				・レポート課題 ・定期試験			
授業概要				教科書			
・教科書中心の講義、その関連付けと解説				歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版			
・毎回 小レポート				医歯薬出版株式会社			
・毎回 前回の復習				参考書			
履修上の注意事項							
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	勉強の進め方						
第2回	歯科臨床概論とは、基礎科目・臨床科目						
第3回	臨床科目の内容						
第4回	医療について						
第5回	健康について						
第6回	健康について、医療人の義務						
第7回	ヒポクラテスの誓い、メンテナンス、教科書Ⅰ編1章 歯科診療とは						
第8回	教科書Ⅰ編2章 歯科診療所						
第9回	教科書Ⅰ編2章歯科診療所 3.歯科診療所における安全管理、インフォームドコンセント						
第10回	教科書Ⅰ編3章 歯科診療所における業務 教科書Ⅱ編1章 ライフステージと歯科診療、2章 診療で行うこと―主な診療の流れ―						
第11回	教科書Ⅱ編2章 歯科診療で行うこと―主な診療の流れ― 6.歯周治療						
第12回	教科書Ⅱ編2章 歯科診療で行うこと―主な診療の流れ― 2.小児歯科②先天異常への対応						
第13回	教科書Ⅱ編2章 歯科診療で行うこと―主な診療の流れ―う蝕						
第14回	教科書Ⅱ編2章 歯科診療で行うこと―主な診療の流れ―不正咬合						
第15回	教科書Ⅱ編2章 歯科診療で行うこと―主な診療の流れ―外傷、まとめ						

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学	単位数	2	選択 必修	必修
			保存修復学	時間数	30		
担当教員	小林 敏郷			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	歯科大学 保存科 勤務(8年)						
	歯科診療所 勤務(2年) 歯科診療所 開業(H18.4～現在に至る)						
	日本歯科保存学会 専門医						
実務経験と授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な診療の流れや材料や器械を十分に使いこなすための知識と診療補助を行う術者としての熟練した技術を養う。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室①		
	後期	金曜日 3時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・保存修復における診療補助を行う術者としての熟練した技術、さらに診療の流れや材料や器械を十分に使いこなすための知識を身につける。				・定期試験			
授業概要				教科書			
・教科書に沿って、専門用語等わかりやすく解説しながら、実際の材料等も見ながら理解を深める。				歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学			
				医歯薬出版株式会社			
				参考書			
履修上の 注意事項							
授業の計画							
〈後期〉							
第1回	総 論	歯の保存療法とは					
第2回		口腔内審査 ①					
第3回		口腔内審査 ②					
第4回	各 論	硬組織疾患の種類と病態					
第5回		窩洞形態と分類					
第6回		保存修復治療の概要					
第7回		歯の切削と歯髄保護					
第8回		コンポジットレジン修復 ①					
第9回		コンポジットレジン修復 ②					
第10回		グラスアイオノマー修復					
第11回		歯の漂白					
第12回		鑄造修復 ①					
第13回		鑄造修復 ②					
第14回		セラミックレジンインレー修復、CAD/CAMインレー修復、ラミネートベニア修復					
第15回		歯科用セメント					

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学	単位数	2	選択 必修	必修
			歯・歯髄疾患論	時間数	30		
担当教員	堀 聡久			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	歯科診療所 勤務(9年)						
	歯科診療所 開業(H30.4～現在に至る)						
実務経験と授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯内療法学を通して最新の知識と技術を養う。						
学期区分	前期	水曜日 4時限		講義室等	普通教室②		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・歯内療法学として、関連歯科疾患及びその診断、治療法について理解する。 また、同学問における最新の知識と技術を学ぶとともに、歯科衛生士として必要な臨床、公衆衛生の実際を理解し実務に生かせるようにする。				・出席状況・態度 ・小テスト ・定期試験			
授業概要				教科書			
・歯内療法の概要を理解する。 ・歯内療法における疾患及びその治療方法を理解する。 ・歯内療法における機材、薬剤を理解する。 ・歯内療法における臨床と実際を知る。				歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学			
				医歯薬出版株式会社			
				参考書			
履修上の 注意事項	実際の臨床では最も基本でありながら理解するのが難しく知らないと困る分野の一つです。 わからないまま先に進まず、一つ一つ覚えていきましょう。						
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	歯内療法の概要「歯内療法学とは？」						
第2回	歯内療法における主な疾患及び原因						
第3回	歯内療法における主な疾患の診断及び治療法						
第4回	第1～3回小テスト(採点から解説まで) 歯の痛み、歯髄の診断						
第5回	歯髄温存療法						
第6回	歯髄除去療法(抜髄)						
第7回	根管治療①(抜髄と感染根管治療について、根管治療の術式の流れ)						
第8回	根管治療②(抜髄と感染根管治療について、根管治療の術式の流れ)						
第9回	根管治療の実際(機材、薬剤、その他臨床応用)						
第10回	第5～9回小テスト(採点から解説まで) 最新の歯内療法						
第11回	歯の外傷、外科的歯内療法						
第12回	歯内療法における安全対策(偶発症とその対応)						
第13回	歯内療法における歯科衛生士の役割及び実際						
第14回	第11～13回小テスト(採点から解説まで) まとめ						
第15回	全範囲小テスト まとめ						

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学 歯周療法学Ⅰ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	羽田 房子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	大学歯学部 補綴学教室 勤務(3年)						
	歯科診療所他 勤務(40年)						
	産業歯科医・産業カウンセラー・労働衛生コンサルタント(保健衛生)・介護支援専門員						
実務経験と授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯周治療に果たす歯科衛生士の役割についての知識と技術を養う。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室①		
	後期	月曜日 4時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・歯周組織、歯周病、歯周治療の実際、歯周治療に果たす歯科衛生士の役割についての知識を習得する。				・定期試験			
授業概要				教科書			
				歯科衛生学シリーズ 歯周病学			
				医歯薬出版株式会社			
				参考書			
履修上の注意事項							
授業の計画							
〈後期〉							
第1回	I-1	歯周治療とは 症例					
第2回	I-2	正常な歯周組織の構造					
第3回	I-2	正常な歯周組織の機能					
第4回	I-3	①	歯周疾患の分類				
第5回	I-3	①	歯周疾患の分類 (歯肉炎の分類)				
第6回	I-3	①	歯周疾患の分類 (歯周炎の分類他)				
第7回	I-3	①	歯周疾患の原因	1.局所性初発因子			
第8回	I-3	②	歯周疾患の原因	2.局所性修飾因子			
第9回	I-3	②	歯周疾患の原因	2.全身性修飾因子			
第10回	I-3	②	歯周疾患の原因	2.機能性修飾因子			
第11回	Ⅱ-1	歯周治療の進め方					
第12回	Ⅱ-2	歯周疾患の診査	一般・歯周組織検査				
第13回	Ⅱ-2	歯周疾患の診査	歯周組織検査				
第14回	Ⅱ-2	歯周疾患の診査	咬合の診査・X線診査				
第15回	Ⅱ-3	歯周基本治療					

シラバス

授業科目 区分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学 歯周療法学Ⅱ	単位数	2	選択 必修	必修
				時間数	30		
担当教員	羽田 房子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	大学歯学部 補綴学教室 勤務(3年)						
	歯科診療所他 勤務(40年)						
	産業歯科医・産業カウンセラー・労働衛生コンサルタント(保健衛生)・介護支援専門員						
実務経験と授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯周病の予防と治療を実践するための知識と技術を養う。						
学期区分	前期	月曜日 4時限		講義室等	普通教室②		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・歯周病の予防と治療を実践するための知識を習得し、実践に応用していく。				・定期試験			
授業概要				教科書			
・教科書の内容の要点をまとめたプリントを配布し説明して進める。 ・授業中1回は全員が質問に回答するよう、双方向の進进行を心掛ける。 ・小テストで理解の度合いを確認し、不足の場合は再度説明する。 ・外科手術についてはビデオで実施の手術を見て学習する。				歯科衛生学シリーズ 歯周病学			
				医歯薬出版株式会社			
				参考書			
履修上の 注意事項							
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	Ⅱ-3	歯周基本治療					
第2回	Ⅱ-3	歯周基本治療	薬物療法				
第3回	Ⅱ-4	歯周外科治療					
第4回	Ⅱ-4	歯周外科治療	目的・分類				
第5回	Ⅱ-4	歯周外科治療	治癒形態				
第6回	Ⅱ-4	歯周外科治療	外科器具、適応症				
第7回	Ⅱ-4	歯周外科治療	根分岐部病変				
第8回	Ⅱ-5	リハビリテーション					
第9回	Ⅱ-5	リハビリテーション	インプラント				
第10回	Ⅱ-6	メンテナンス					
第11回	歯肉を読む						
第12回	歯肉を読む						
第13回	歯肉を読む						
第14回	歯肉を読む						
第15回	Ⅱ-7	歯科衛生士の役割					

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学 歯科補綴学	単位数	2	選択 必修	必修
				時間数	30		
担当教員	大塚 傑			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	歯科診療所 勤務(5年)						
	歯科診療所 開業(R3.9～現在に至る)						
実務経験と授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な治療計画、治療、治療後の管理および補綴診療における診療補助力を養う。						
学期区分	前期	金曜日 3時限		講義室等	普通教室②		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・歯質の広範囲に及ぶ欠損、喪失における口腔の特性、それに関する形態的、機能的変化を理解し、治療計画、治療、治療後の管理および補綴診療における診療補助を身につける。				・定期試験 ・出席点(出席、授業態度等を加味)			
授業概要				教科書			
・歯科補綴治療の意義と目的と歯科衛生士の役割について、講義形式で学ぶ。 ・歯科補綴治療に用いる器具・器材の取り扱いについては実習を行う。				歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学			
				医歯薬出版株式会社			
				参考書			
履修上の 注意事項	※冨田義和先生による講義となります。講義日に変更が生じるため、確認をするように。						
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	補綴歯科治療の概要						
第2回	補綴歯科治療の基礎知識						
第3回	補綴歯科治療における検査						
第4回	補綴歯科治療の検査						
第5回	Cr&Br治療、CAD/CAM Cr&Br治療						
第6回	Cr&Br治療の実際、プロビジョナルレストレーション						
第7回	※精密印象、CAD/CAM 治療に伴うトラブル						
第8回	有床義歯治療の実際 中テスト						
第9回	全部床義歯 患者指導						
第10回	部分床義歯治療						
第11回	フレームワーク 患者指導						
第12回	※インプラント治療の概要						
第13回	※インプラント治療の流れ						
第14回	特殊な口腔内装置を用いる治療、補綴歯科治療における器材の管理						
第15回	国家試験対策、復習						

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学	単位数	2	選択 必修	必修
			口腔外科学	時間数	30		
担当教員	横林 敏夫			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	大学 歯学部 口腔外科 勤務(11年)						
	総合病院 歯科口腔外科 勤務(31年)						
	歯学博士 日本口腔外科学会認定医 日本口腔外科学会指導医						
実務経験と授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な口腔外科治療の、疾患、症状、治療法についての知識を養う。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室①		
	後期	月曜日 3時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・口腔外科治療の、疾患、症状、治療法について理解する。				・定期試験			
授業概要				教科書			
・症例スライドを用いて、口腔外科領域疾患の病態、治療方法について講義形式で学ぶ。				歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版			
				医歯薬出版株式会社			
				参考書			
履修上の注意事項							
授業の計画							
〈後期〉							
第1回	口腔領域の発育異常と奇形・変形						
第2回	口腔領域の発育異常と奇形・変形						
第3回	口腔領域の損傷						
第4回	口腔粘膜疾患						
第5回	口腔領域の炎症						
第6回	口腔領域の嚢胞						
第7回	口腔領域の嚢胞、口腔領域の腫瘍						
第8回	口腔領域の腫瘍						
第9回	口腔領域の腫瘍・腫瘍類似疾患						
第10回	顎関節疾患						
第11回	唾液腺疾患						
第12回	神経性疾患						
第13回	血液疾患						
第14回	口腔外科小手術						
第15回	歯科麻酔						

シラバス

授業科目 区分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学	単位数	2	選択 必修	必修
			小児歯科学	時間数	30		
担当教員	安齋 理江			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	大学歯学部 勤務(2年)						
	歯科診療所 勤務(H3.～現在に至る)						
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な小児の全身的発育と健康知識を養う。						
学期区分	前期			講義室等	基礎実習室		
	後期	月曜日 1時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・成長・発展途上にある小児の特徴を理解し、健全な育成を通して小児の全身的発育と健康を学ぶ。				・授業中の態度			
				・レポート課題提出			
				・定期試験			
授業概要				教科書			
・教科書中心の講義、その関連付けと解説 ・毎回 前回の復習とレポート提出				歯科衛生学シリーズ 小児歯科学			
				医歯薬出版株式会社			
				参考書			
履修上の 注意事項							
授業の計画							
〈後期〉							
第1回	小児とは						
第2回	子どもの発達障害						
第3回	教科書Ⅰ編1章小児歯科概論						
第4回	教科書Ⅰ編2章 心身の発育						
第5回	教科書Ⅰ編2章 心身の発育						
第6回	教科書Ⅰ編2章 心身の発育						
第7回	教科書Ⅰ編2章 心身の発育						
第8回	教科書Ⅰ編3章 小児の生理的特徴						
第9回	教科書Ⅰ編4章 顔面頭蓋の発育						
第10回	教科書Ⅰ編5章 歯の発育とその異常						
第11回	教科書Ⅰ編6章 歯列・咬合不正の発育と異常						
第12回	教科書Ⅰ編6章 歯列・咬合不正の発育と異常						
第13回	教科書Ⅰ編7章 小児の歯科疾患						
第14回	教科書Ⅰ編7章 小児期の特徴						
第15回	教科書Ⅱ編2章 咬合誘導、まとめ						

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学	単位数	2	選 択 必修	必修
			歯科矯正学	時間数	30		
担当教員	水野 高夫			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	東京歯科大学 歯科矯正学講座 勤務(3年)						
	長野県上田市 水野矯正歯科医院 勤務(H29.4～現在に至る)						
実務経験と授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な不正咬合に伴う咬合機能障害についての知識と適切な診療の補助技術を養う。						
学期区分	前期	月曜日 1時限		講義室等	普通教室②		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・不正咬合に伴う咬合機能障害や心理的障害と、不正咬合の原因や、その治療方法、及び予防方法を学び、適切な診療の補助を行うことができる。				・定期試験			
授業概要				教科書			
・矯正歯科治療の歴史を辿り、歯科矯正学の定義、概念、治療の必要性について学ぶ。 ・不正咬合を類型別にまとめ、定義と特徴、一般的な治療の流れを学ぶ。				歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 第2版 医歯薬出版株式会社			
				参考書			
履修上の注意事項							
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	矯正歯科治療の概要						
第2回	成長発育						
第3回	正常咬合と不正咬合						
第4回	矯正歯科診断						
第5回	矯正歯科治療と“力”―矯正力・顎整形力・保定―						
第6回	矯正装置						
第7回	上下顎の前後的関係の不調和／上下顎の垂直的關係の不調和(過蓋咬合・開咬)						
第8回	成人矯正／口腔顎顔面の形成異常と変形						
第9回	歯の埋伏と歯数の異常／歯科矯正時のトラブルへの対応						
第10回	健康保険が適応される矯正歯科治療						
第11回	矯正歯科診断に関わる業務						
第12回	矯正歯科診療時の業務						
第13回	矯正歯科患者と口腔保健管理						
第14回	口腔筋機能療法／器材、資料、文書の管理						
第15回	まとめ						

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学 高齢者歯科学Ⅰ	単位数	2	選 択 必 修	必 修
				時間数	30		
担当教員	池田 秀子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	歯科診療所 勤務(7年)						
	行政 保健福祉部 勤務(15年)						
	団体 生活部 福祉課 勤務(13年)						
実務経験と授 業	歯科衛生士の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な高齢者・有病者の身体的・精神的特徴について知識を養う。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室①		
	後期	木曜日 4時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
高齢者・有病者の身体的・精神的特徴と歯科治療上の留意事項を理解すること を目標に、高齢者歯科に対する理解を深め、実践に繋がる知識・技術・姿勢の 習得を目指したいと考える。				・定期試験			
				・ミニテスト			
				・出席状況及び態度			
授業概要				教科書			
教本を中心に、パワーポイントを活用し視覚的解説を加え、臨床場面の 状況・事例・症例等の紹介を織り交ぜた講義により、実践に繋がる 理解力の向上を図りたいと思う。				歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学			
				医歯薬出版株式会社			
				参考書			
履修上の 注意事項	・理解度確認のためミニテストを実施する。						
	・授業態度、ミニテストの成績についても加味し、総合的に評価する。						
授業の計画							
〈後期〉							
第1回	レクチャー体験[自己紹介]			序章 高齢者歯科学 歯科衛生士の役割			
第2回	Ⅰ 編 高齢者をとりまく社会と環境			1章 高齢社会と健康			
第3回	Ⅰ 編 高齢者をとりまく社会と環境			2章 高齢者の健康に関わる法制度 ① ② 介護保険制度			
第4回	Ⅰ 編 高齢者をとりまく社会と環境			3章 高齢者の健康に関わる法制度 ③			
第5回	Ⅰ 編 高齢者をとりまく社会と環境			3章 地域包括ケアシステム 4章高齢者の居住形態			
第6回	Ⅱ 編 加齢による身体的・精神的変化と疾患			1章 身体的機能の変化			
第7回	Ⅱ 編 加齢による身体的・精神的変化と疾患			2章 高齢者の精神・心理の変化			
第8回	Ⅱ 編 加齢による身体的・精神的変化と疾患			3章 高齢者に多い全身疾患・障害及び口腔疾患 ①			
第9回	Ⅱ 編 加齢による身体的・精神的変化と疾患			3章 高齢者に多い全身疾患・障害及び口腔疾患 ②			
第10回	Ⅱ 編 加齢による身体的・精神的変化と疾患			3章 高齢者に多い全身疾患・障害及び口腔疾患 ③【事例1】			
第11回	Ⅲ編 高齢者の状態の把握			1章 高齢者の生活機能の評価 ①生活・ADL・QOL評価			
第12回	Ⅲ編 高齢者の状態の把握			1章 高齢者の生活機能の評価 ②認知機能の評価			
第13回	Ⅲ編 高齢者の状態の把握			2章 高齢者歯科と臨床検査			
第14回	Ⅲ編 高齢者の状態の把握			3章 高齢者の栄養状態			
第15回	Ⅲ編 高齢者の状態の把握			4章 高齢者の薬物服用			

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学 高齢者歯科学Ⅱ	単位数	2	選択 必修	必修
				時間数	30		
担当教員	池田 秀子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		
実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	歯科診療所 勤務(7年)						
	行政 保健福祉部 勤務(15年)						
	団体 生活部 福祉課 勤務(13年)						
実務経験と授 業	歯科衛生士の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な高齢者・有病者の身体的・精神的特徴についての知識を深め実践につながる技術を養う。						
学期区分	前期	木曜日 4時限		講義室等	普通教室②		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・高齢者・有病者の身体的・精神的特徴と歯科治療上の留意事項及び口腔衛生管理・口腔機能管理の実際を理解することを目標に、講義と実習を通して高齢者歯科に対する理解を深め、実践に繋がる知識・技術・姿勢の習得を目指したいと考える。				・定期試験			
				・ミニテスト			
				・出席状況及び態度			
授業概要				教科書			
教本を中心に、パワーポイントを活用し視覚的解説を加え、臨床場面状況・事例・症例等の紹介を織り交ぜた講義と要介護高齢者に対する口腔健康管理の実習の体験から理解力の向上を図りたいと思う。				歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学			
				医歯薬出版株式会社			
				参考書			
				歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版			
履修上の 注意事項	・理解度の確認のためミニテストを実施する。						
	・授業態度、ミニテストの成績についても加味し、総合的に評価する。						
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	Ⅳ編 口腔健康管理	1章 口腔健康管理のための評価 2章 健康な高齢者に対する					
第2回	Ⅳ編 口腔健康管理	3章 周術期・急性期に対する					
第3回	Ⅳ編 口腔健康管理	4章 回復期に対する 5章 慢性期に対する 1.2					
第4回	Ⅳ編 口腔健康管理	5章 慢性期に対する 3.4 [事例2]					
第5回	Ⅳ編 口腔健康管理	6章 終末期に対する					
第6回	Ⅴ編 摂食嚥下リハビリテーション	1章 摂食嚥下の評価					
第7回	Ⅴ編 摂食嚥下リハビリテーション	2章 嚥下訓練と対応・食事支援					
第8回	Ⅴ編 摂食嚥下リハビリテーション	3章 在宅における摂食嚥下リハビリテーション[事例3]					
第9回	Ⅴ編 摂食嚥下リハビリテーション	4章 介護施設における摂食嚥下リハビリテーション[事例4]					
第10回	実習【要介護高齢者に対する口腔健康管理の実際】						
第11回	実習【要介護高齢者に対する口腔健康管理の実際】						
第12回	Ⅵ編 高齢者に関わる医療と介護	1章 高齢者のリハと概要 2章 在宅医療の概要					
第13回	Ⅵ編 高齢者に関わる医療と介護	3章 訪問看護と歯科の役割 4章 訪問介護と歯科の役割					
第14回	Ⅵ編 高齢者に関わる医療と介護	5章 訪問診療における歯科医療					
第15回	Ⅶ編 高齢者に関わる歯科衛生士の実践	1章 歯科衛生士過程と事例 2章 ICFの活用と事例[事例5]					

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門基礎 分野	担当科目	臨床歯科医学 障害者歯科学		単位数	2	選択 必修	必修
					時間数	30		
担当教員	安齋 和憲				受講学科	歯科衛生士学科		
					学 年	2年		
実務家教員と しての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。							
	病院 勤務(3年)							
	歯科診療所 勤務(R4.3～現在に至る)							
実務経験と 授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な障害者について歯科の特徴に関する知識を養う。							
学期区分	前期				講義室等	普通教室②		
	後期	木曜日 3時限			授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
・障害者の現状を把握し、それぞれの歯科的特徴を理解する。					小テスト			
					レポート			
					定期試験			
授業概要					教科書			
・歯科衛生業務を行うために必要な障害児者の身体的・心理的特徴と歯科治療を講義形式で学ぶ。 ・歯科衛生士として障害者診療に関する知識を身につけ、理解を深めるためにレポートを作成する。					歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学			
					医歯薬出版株式会社			
					参考書			
履修上の 注意事項								
授業の計画								
<後期>								
第1回	障害とは、国際障がい分類							
第2回	ICF、障害の受容							
第3回	原因と種類、歴史、ノーマライゼーション							
第4回	保健、医療、福祉の基盤、法律							
第5回	障害者歯科の特質、困難性							
第6回	絵カードの内容説明、性感染症について、行動調整、行動変容							
第7回	絵カード作製							
第8回	媒体としての絵本の利用、3歳児健診の分類							
第9回	絵カード、脱感作、フラッディング法							
第10回	行動変容法、TSD、HOM、タイムアウト							
第11回	体動コントロール、鎮静法							
第12回	障がいの種類、知的障害、ダウン症、自閉症							
第13回	脳性麻痺、筋ジストロフィー、てんかん							
第14回	重症心身障害、主訴とは、障害者の歯科診療補助							
第15回	発達障害、摂食のメカニズム(実習)							

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学 歯科放射線学	単位数	2	選 択 必 修	必 修
				時間数	30		
担当教員	松尾 寿美恵			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	大学歯科保存学教室 勤務(2年)						
	歯科診療所 勤務(H11.4～現在に至る)						
実務経験と授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な放射線についての知識と、適切な歯科診療の補助技術を養う。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室①		
	後期	水曜日 3時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・患者の健康状態や疾患を把握し、歯科衛生業務を実施するために必要な エックス線画像検査の意義と関連を理解する。				筆記試験			
授業概要				教科書			
・放射線の生物学的影響を理解し、放射線防護およびエックス線画像の形成 原理について学ぶ。				わかりやすい歯科放射線学 第3版			
・エックス線撮影の種類と適応、手技および病変のエックス線所見を学ぶ。				学建書院			
・エックス線撮影の歯科診療補助法については実習を行う。				参考書			
履修上の 注意事項	・実習に備え、各自手技の確認を行うこと。						
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	放射線とエックス線について						
第2回	放射線とエックス線について						
第3回	「放射線の種類・医療における放射線の利用・エックス線の性質・放射線防護」						
第4回	「放射線の種類・医療における放射線の利用・エックス線の性質・放射線防護」						
第5回	歯科用エックス線装置とエックス線写真「歯科用エックス線装置の基本構造・特殊性・写真処理」						
第6回	撮影法1「口外撮影法・断層撮影・頭部規格」						
第7回	撮影法1「口外撮影法・断層撮影・頭部規格」						
第8回	撮影法2「口内撮影法 二等分法・咬翼法・咬合法」						
第9回	撮影法2「口内撮影法 二等分法・咬翼法・咬合法」						
第10回	フィルム処理、デジタルエックス線システム						
第11回	最新の画像診断「CT MRI 超音波」						
第12回	パノラマ撮影法(実習)						
第13回	パノラマ撮影法(実習) エックス線写真の読み方「パノラマ写真病態」						
第14回	デンタル撮影法(実習)						
第15回	デンタル撮影法(実習) エックス線写真の読み方「デンタル写真病態」						

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	歯科予防処置論		単位数	6	選択 必修	必修
			歯科予防処置法Ⅰ		時間数	120		
担当教員	岡部 あゆ美			受講学科	歯科衛生士学科			
				学 年	1年			
実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。							
	歯科診療所 勤務(4年)							
実務経験と授 業	歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯・口腔の状況把握および歯科予防処置の基本的知識および口腔内における安全に配慮した機械的操作の知識・技術・態度を養う。							
学期区分	前期	月曜日 1.2時限			講義室等	基礎実習室・実習室		
	後期	金曜日 1.2時限			授業形式	講義・実習		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
・歯・口腔の状況把握および歯科予防処置の基本的知識および口腔内における安全に配慮した機械的操作の知識・技術・態度を修得する。					実技試験・筆記試験・小テスト・身支度・提出物・授業態度・出席状況			
授業概要					教科書			
1 歯周組織および口腔内の組織や病態、病因について基本的な知識を学ぶ。 2 歯周病予防における歯周検査から歯石除去、歯面研磨までの一連の流れを正確に、且つ安全に行えるよう基本的な技術、知識を習得する。					歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版 歯科衛生学シリーズ「歯周病学」			
					参考書			
履修上の注意事項	実習を欠席しても、原則的に補講を行わないため、必ず実習に出席すること。 実技試験の受験資格はすべての実習を受講した者とする。 前期の実技試験に合格した者が、後期の実技試験を受験することができる。 すべての実技試験に合格しない場合は、単位認定不可とする。※ただし、定期試験当日の出席は可能。 定期試験は前期50点後期50点の合計100点満点とし、合計60点以上獲得で単位認定とする。 再試験は前期後期通年の内容とし、6割以上を合格とするが、評定は「可」となる。 ※ただし、実技試験に合格していない場合は定期試験の再試験は行わない。							
授業の計画								
〈前期〉					〈後期〉			
第1回	歯科予防処置概論／口腔の基礎知識・口腔内の付着物・沈着物(講義)				第1回	ブローピング操作(相互実習)		
第2回	身支度、NISSINマネキン組み立て(講義・実習)				第2回	SRPIについて、キュレットスケーラー種類(講義)		
第3回	う蝕・歯周病の基礎知識(講義)				第3回	キュレットスケーラー操作方法、ポジショニング(講義)		
第4回	歯科衛生過程の進め方(講義)				第4回	キュレットスケーラー(マネキン実習)		
第5回	探針・ミラーの役割、基本操作、術者ポジション、手指固定(講義・マネキン実習)				第5回	シャープニング(GCセミナー)		
第6回	スケーリングについて(講義) シックルスケーラー操作(実習)				第6回	キュレットスケーラー(マネキン実習)		
第7回	シックルスケーラーポジショニング 歯牙に人口歯石をつける(講義・実習)				第7回	超音波、エアスケーラー、エアフロー(講義)		
第8回	シックルスケーラー操作、下顎前歯(マネキン実習)				第8回	歯面研磨、PMTc(講義)		
第9回	シックルスケーラー操作、上顎前歯(マネキン実習)				第9回	SC・歯面研磨 相互実習①		
第10回	シックルスケーラー操作復習(マネキン実習)				第10回	SC・歯面研磨 相互実習②		
第11回	洗浄・貼薬/ブローピングについて(講義)				第11回	SC・歯面研磨 相互実習③		
第12回	ブローピング操作(マネキン実習)				第12回	キュレットスケーラー操作復習(実習)		
第13回	シックルスケーラー実技試験				第13回	キュレットスケーラー実技試験		
第14回	前期 まとめ				第14回	まとめ		
第15回	前期 定期試験				第15回	期末定期試験		

シラバス

授業科目 区分	専門分野	担当科目	歯科予防処置論	単位数	6	選択 必修	必修
			歯科予防処置法Ⅱ	時間数	120		
担当教員	岡部 あゆ美			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		
実務家教員 としての経 歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	歯科診療所 勤務(4年)						
実務経験と 授 業	歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な口腔の健康状態を維持するための要因と、予防法についての知識を養う。						
学期区分	前期	水曜日 1.2時限		講義室等	基礎実習室・実習室		
	後期	木曜日 4時限・集中講義		授業形式	講義・実習		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・口腔の健康状態を維持するための要因と、予防可能な口腔疾患の種類、その原因と予防法について理解する。 ・歯科衛生過程の基本的考え方を学び、口腔保健を担う専門的職業人としての倫理的配慮や活動の在り方を理解する。				筆記試験・小テスト・身支度・提出物・授業態度・出席状況			
授業概要				教科書			
1 口腔疾患の予防原理について理解し、口腔領域の健康づくりの基本的な知識を習得する。 2 口腔疾患予防の一連の流れを正確に、且つ安全に行えるよう基本的な技術、知識を習得する。 3 口腔保健の向上のための介入方法を考え、個々の対象者に応用できる問題解決能力を身につける。				歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 歯科衛生学シリーズ「歯周病学」 歯科衛生士のための齲蝕予防処置法 歯科衛生士教育サブテキスト「歯科衛生過程 HAND BOOK」			
履修上の注 意事項	・定期試験受験資格はすべての実習に出席した者のみとする。						
授業の計画							
〈前期〉				〈後期〉			
第1回	口腔内写真について(講義)			第1回	エックス線撮影読み取り 復習①②		
第2回	口腔内写真(5枚法)撮影(実習)			第2回	う蝕活動性試験(講義)③④		
第3回	エックス線読み取り①(講義)			第3回	う蝕活動性試験(講義)⑤⑥		
第4回	エックス線読み取り②(講義)			第4回	歯周病治療⑦⑧		
第5回	う蝕予防処置概論／フッ化物とは(講義)			第5回	SPTとメンテナンス(講義)⑨⑩		
第6回	フッ化物歯面塗布/フッ化物洗口法(講義)			第6回	歯周外科治療(講義)⑪⑫		
第7回	フッ化物歯面塗布/フッ化物洗口法 相互実習			第7回	歯面研磨 相互実習		
第8回	小窩裂溝填塞法/フッ化ジアンミン銀(講義) 小窩裂溝填塞法 マネキン実習			第8回	小テスト⑮⑯		
第9回	偶発事故(講義)患者実習流れ			第9回	全身疾患について 病院実習事前レポート		
第10回	ブローピング・スケーリング・PTC実技復習① (シックル、超音波、エアー)			第10回	全身疾患について 病院実習事前レポート		
第11回	ブローピング・スケーリング・PTC実技復習② (シックル、超音波、エアー)			第11回	全身疾患について 病院実習事前レポート		
第12回	ブローピング・スケーリング・PTC実技復習③ (シックル、超音波、エアー)			第12回	歯科衛生過程		
第13回	患者実習①			第13回	演習		
第14回	患者実習②			第14回	演習		
第15回	患者実習③			第15回	演習		

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	歯科予防処置論	単位数	2	選択 必修	必修
			歯科予防処置法Ⅲ	時間数	30		
担当教員	岡部 あゆ美			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	3年		
実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	歯科診療所 勤務(4年)						
実務経験と授 業	歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な臨床で対応できる知識と技術を養う。						
学期区分	前期	集中講義	講義室等	基礎実習室			
			授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・歯科予防処置の知識を再確認し、臨床で対応できるよう 技術・知識・態度を修得する。				・筆記試験・小テスト・身支度・提出物・授業態度・出席状況			
授業概要				教科書			
1 口腔保健管理のためのプログラムを提供できるように、歯科予防処置の意義、目的を十分に理解する。 2 歯科予防処置全般について理解を深めるとともに、安全に配慮した行動を習得する。				最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 最新歯科衛生士教本「歯周病学」 「歯科衛生士のための齲蝕予防処置法」 歯科衛生士サブテキスト「歯科衛生過程HAND BOOK」			
履修上の 注意事項							
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	総論・予防レベル						
第2回	総論・予防レベル						
第3回	基礎知識・口腔内沈着物・付着物						
第4回	基礎知識・口腔内沈着物・付着物						
第5回	歯周組織・検査						
第6回	歯周組織・検査						
第7回	SRP・器具メンテナンス						
第8回	SRP・器具メンテナンス						
第9回	う蝕予防処置						
第10回	フッ化物応用						
第11回	フッ化物応用						
第12回	う蝕活動性試験						
第13回	歯周治療(歯周基本治療・歯周外科治療・SPT・メンテナンス)						
第14回	歯科衛生過程						
第15回	定期試験						

シラバス

授業科目 区分	専門分野	担当科目	歯科保健指導論		単位数	2	選択 必修	必修
			歯科保健指導Ⅰ		時間数	30		
担当教員	宮本 佑美				受講学科	歯科衛生士学科		
					学 年	1年		
実務家教員 としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。							
	歯科診療所 勤務(5年)							
実務経験と 授 業	歯科衛生士の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯および口腔を形成する諸器官の微細構造についての知識を養う。							
学期区分	前期	金曜日 2時限			講義室等	普通教室①・基礎実習室・臨床実習室		
	後期	木曜日 1時限			授業形式	講義・実習		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
歯科保健指導の方法および歯科衛生教育法の基礎的技術について習得し 患者に応じた歯科保健行動の変容を支援するため必要な知識・技術・態度 を理解する					筆記試験			
					出席・授業態度			
					課題の到達度・提出度			
					教科書			
授業概要					歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版			
歯科保健指導の基礎					歯科衛生学シリーズ 保健生態学			
口腔機能、初期病変の理解					参考書			
口腔清掃指導の基礎および口腔清掃指導法の理解					歯科衛生学シリーズ 保健情報統計学			
口腔衛生状態の評価法								
履修上の 注意事項	家庭学習をしっかりと行い、課題をもって出席とする場合は期日を守ること							
	前期50点 後期50点 合計100点満点で試験を行う。再試験は前期・後期の内容とする。							
授 業 の 計 画								
〈前 学 期〉					〈後 学 期〉			
第1回	総説・概要				第1回	歯磨剤・洗口剤		
第2回	歯科保健指導と保健教育・保健行動				第2回	セミナー(歯磨剤・洗口剤について：Haleonジャパン株)		
第3回	口腔の基礎知識1				第3回	相互実習(TBI)		
第4回	口腔の基礎知識2				第4回	口腔内観察に関する指数1	PCR	
第5回	歯科疾患の発生機序・予防方法				第5回	口腔内観察に関する指数2	PCR実習	
第6回	口腔清掃の基礎・分類1				第6回	口腔内観察に関する指数3	OHI/OHI-S	
第7回	口腔清掃の基礎・分類2				第7回	口腔内観察に関する指数4	PHP/PII	
第8回	口腔清掃方法1				第8回	口腔内観察に関する指数5	PMA/PI/GI	
第9回	口腔清掃方法2				第9回	口腔内観察に関する指数6	OHI/PMA	実習
第10回	歯垢染色剤				第10回	口腔内観察に関する指数7	GB-Count/CPI	
第11回	実習1(口腔清掃方法・染め出しあり)				第11回	口腔内観察に関する指数8	DMF他	
第12回	口腔清掃補助用具				第12回	う蝕活動性試験(RDテスト実習)		
第13回	特別な要因がある場合やライフステージ別の口腔清掃指導法				第13回	実習(口腔内観察に関する指数・CPI)		
第14回	実習2(口腔清掃方法・染め出しあり)				第14回	課題(口腔内観察に関する指数)		
第15回	実習3(夏季課題・他者への染め出し、口腔清掃)				第15回	災害時の歯科保健		

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	歯科保健指導論	単位数	2	選択 必修	必修
			歯科保健指導Ⅱ	時間数	30		
担当教員	宮本 佑美			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		
実務家教員 としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	歯科診療所 勤務(5年)						
実務経験と 授 業	歯科衛生士の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯および口腔を形成する諸器官の微細構造についての知識を養う。						
学期区分	前期	水曜日 3時限		講義室等	普通教室②・基礎実習室・臨床実習室		
	後期	集中講義		授業形式	講義・実習		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
歯科保健指導の方法および歯科衛生教育法の基礎的技術について習得し 患者に応じた歯科保健行動の変容を支援するため必要な知識・技術・態度 を理解する				筆記試験			
				出席・授業態度			
				課題の到達度・提出度			
				教科書			
授業概要				歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論			
口腔保健に関する情報と収集		歯科衛生過程		歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学 第2版			
対象把握・伝達方法(医療面接法)		対象別指導法		参考書			
生活習慣・リスクに応じた歯科保健		高齢者歯科		歯科衛生学シリーズ 保健生態学			
口腔衛生状態の評価法		衛生教育		DHのための摂食嚥下リハビリテーション 第2版			
履修上の 注意事項	家庭学習をしっかりと行い、課題をもって出席とする場合は期日を守ること。						
	前期50点 後期50点 合計100点満点で試験を行う。再試験は前期・後期の内容とし100点満点とする。						
授 業 の 計 画							
〈前 学 期〉				〈後 学 期〉			
第1回	歯科衛生過程の基本			第1回	在宅訪問診療		
第2回	医療面接について			第2回	高齢者の生活機能の評価1		
第3回	口腔情報収集についての知識			第3回	高齢者の生活機能の評価2		
第4回	業務記録			第4回	高齢者に対する口腔ケア1		
第5回	相互実習(医療面接・TBI)			第5回	高齢者に対する口腔ケア2		
第6回	健康と予防			第6回	相互実習(器質的口腔ケア)		
第7回	歯科疾患と全身疾患			第7回	実習1(患者体験・疑似麻痺体験)		
第8回	禁煙指導			第8回	実習2(患者体験・疑似麻痺体験)		
第9回	補綴物装着後の継続管理・手法			第9回	GC㈱セミナー(口腔機能低下症)		
第10回	Haleonジャパン㈱セミナー 義歯洗浄剤			第10回	GC㈱セミナー(口腔機能低下症)		
第11回	口臭について			第11回	集団に対する指導法		
第12回	口腔内に関する指数(1年次復習)			第12回	㈱ヨシダ 電動歯ブラシセミナー		
第13回	地域歯科保健活動における健康教育			第13回	㈱ヨシダ 電動歯ブラシセミナー		
第14回	メンテナンスについて1			第14回	実習3(吸引実習)		
第15回	メンテナンスについて2			第15回	実習4(吸引実習)		

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	歯科保健指導論 歯科保健指導Ⅲ	単位数	2	選択 必修	必修
				時間数	30		
担当教員	宮本 佑美			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	3年		
実務家教員 としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	歯科診療所 勤務(5年)						
実務経験と 授 業	歯科衛生士の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯および口腔を形成する諸器官の微細構造についての知識を養う。						
学期区分	前期	集中講義		講義室等	2号館4階		
	後期	曜日 時限		授業形式	講義・実習		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
歯科保健指導の方法および歯科衛生教育法の基礎的技術について習得し 患者に応じた歯科保健行動の変容を支援するため必要な知識・技術・態度 を理解する				筆記試験			
				出席・授業態度 課題の取り組み方・到達度・提出度			
				教科書			
授業概要				歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論			
ライフステージ別歯科保健指導				参考書 歯科衛生学シリーズ 保健生態学 国試の麗人			
集団に対する指導法(衛生教育実習)							
口腔衛生状態の評価法							
履修上の 注意事項	家庭学習をしっかりと行う						
	ライフステージを理解するために臨床実習で様々な年代の方と積極的に交流するように心がける						
授 業 の 計 画							
〈前 学 期〉							
第1回	国家試験対策1						
第2回	国家試験対策2						
第3回	国家試験対策3						
第4回	国家試験対策4						
第5回	国家試験対策5						
第6回	国家試験対策6						
第7回	国家試験対策7						
第8回	衛生教育実習 課題1(個人媒体作製)						
第9回	衛生教育実習 課題2(個人媒体作製)						
第10回	衛生教育実習 事前学習1						
第11回	衛生教育実習 事前学習2						
第12回	衛生教育実習準備1						
第13回	衛生教育実習準備2						
第14回	衛生教育実習準備3						
第15回	前期定期試験						

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	歯科保健指導論 栄養指導	単位数	2	選択 必修	必修
				時間数	30		
担当教員	宮本 佑美			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		
実務家教員 としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	歯科診療所 勤務(5年)						
実務経験と 授 業	歯科衛生士の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯および口腔を形成する諸器官の微細構造についての知識を養う。						
学期区分	前期	火曜日 2時限			講義室等	普通教室②・基礎実習室	
	後期	曜日 時限			授業形式	講義・実習	
授業のねらい、目標					成績評価の方法		
栄養摂取の手段となる「食べる」という行為と切り離すことのできない歯科業界から、全身疾患予防・口腔疾患予防へのアプローチ法を学ぶ					筆記試験		
					出席・授業態度		
					課題の到達度・提出度		
					教科書		
授業概要					歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論		
歯科栄養指導の基礎					歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝		
歯科と栄養の関わり					参考書		
全身疾患・歯科疾患と栄養							
ライフステージ別歯科栄養指導							
履修上の 注意事項	家庭学習をしっかりと行う						
	課題をもって出席とする場合は期日までに提出すること						
授 業 の 計 画							
〈前 学 期〉							
第1回	食生活と健康						
第2回	食生活改善の取り組み						
第3回	食育基本法						
第4回	食事摂取基準						
第5回	食品と齲蝕誘発性						
第6回	糖質・代用甘味料・齲蝕予防のための食品摂取法						
第7回	咀嚼と食品						
第8回	食べ物と健康						
第9回	口腔機能発達・口腔機能発達不全症						
第10回	障害に応じた食物形態						
第11回	課題)ライフステージ別栄養指導1						
第12回	課題)ライフステージ別栄養指導2						
第13回	味覚実習						
第14回	確認テスト						
第15回	確認テスト(解説)						

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	歯科診療補助論		単位数	6	選択 必修	必修	
			歯科診療補助法Ⅰ		時間数	120			
担当教員	本山 晃代				受講学科	歯科衛生士学科			
					学 年	1年			
実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。								
	歯科診療所 勤務(4年)								
実務経験と授 業	歯科診療補助に必要な基礎的知識と技術を養う。								
学期区分	前期	月曜日 3・4時限			講義室等	基礎実習室・実習室			
	後期	火曜日 1・2時限			授業形式	講義・実習			
授業のねらい、目標					成績評価の方法				
・歯科診療の基本的な知識・態度及び考え方を身につける。(知識・理解)					実技試験、筆記試験、身支度、提出課題、出席状況、				
・歯科診療を行うための器具や材料を理解し、取り扱い法を習得する。(技能)					平常学習態度				
・必要に応じて不足している知識や技能を身に付けようとしている。(態度・志向性)									
授業概要					教科書				
・常に感染予防、医療安全に配慮し実習に臨むことができる。					歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論第2版 医歯薬出版(必携)				
・印象材、合着材をはじめとした歯科材料の知識と技術を身につける。					参考書				
・共同動作、ラバーダム防湿法、印象採得など相互実習において技術が習得できる。					歯科衛生士のための歯科用語辞典 ポケットマニュアル第2版				
履修上の 注意事項	・実習を欠席しても、原則的に補講は行わないため、必ず実習に出席すること。								
	・実習の際は、身だしなみを整えた状態で授業開始時間までに着席していること。身だしなみが整っていない場合は遅刻扱いとする。								
	・(実技試験受験資格) 全ての実習を受講した者が得られる。								
	・(筆記試験受験資格) 全ての実技試験を合格した者が得られる。								
	・実技試験不合格者は、単位不認定とするが、筆記試験当日の出席は可能。※再試験は行わない								
授業の計画									
〈前期〉					〈後期〉				
第1回	歯科診療補助の概要・業務範囲、医療安全				第1回	スタディモデル作製 相互実習 上顎			
第2回	感染予防、手指衛生方法 マスク、グローブ、エプロンの装着方法				第2回	スタディモデル作製 相互実習 下顎			
第3回	消毒法、滅菌法、医療廃棄物の取り扱い 基礎実習心得読み合わせ				第3回	ラバーダム防湿法 基礎知識 マネキン実習			
第4回	小テスト 衛生材料作製 実習				第4回	ラバーダム防湿法 相互実習			
第5回	歯科診療における基礎知識(環境・設備・患者対応) 共同動作の基本(講義、マネキン実習:バキューム操作・フォーハンド・器具の受け渡し)				第5回	隔壁・歯間分離 講義・マネキン実習			
第6回	共同動作 相互実習①(器具の洗浄方法・ポジショニング・ライティング・バキューム・3wayシリンジ操作・受け渡し)				第6回	歯肉圧排、寒天・アルジネート連合印象 基礎知識 肉圧排:マネキン実習)			(歯
第7回	共同動作 相互実習②(ポジショニング・ライティング・バキューム操作・4wayシリンジ操作(洗浄・乾燥)・受け渡し)				第7回	寒天・アルジネート連合印象採得・咬合採得 (マネキン実習・共同動作)			
第8回	共同動作実技試験				第8回	仮封材 基礎知識 テンポラリーストッピング操作 マネキン実習			
第9回	アルジネート印象材の基礎知識 器具の把持方法・練和練習				第9回	酸化亜鉛ユーージノールセメント・レジン系仮封材・ 水硬性仮封材 マネキン実習			
第10回	アルジネート印象材 練和・印象採得 マネキン実習 (回転トレイ)				第10回	合着材・接着材 基礎知識・練和実習 (グラスアイオノマーセメント・接着性レジンセメント)			
第11回	アルジネート印象材 練和・印象採得 マネキン実習 (上下顎・全顎)				第11回	合着材・接着材 基礎知識・練和実習 (リン酸亜鉛セメント・カルボキシレートセメント(セメント除去))			
第12回	アルジネート印象材 練和実技試験				第12回	合着材・接着材・仮封材 実技試験			
第13回	アルジネート印象採得 相互実習 下顎全顎				第13回	放射線学 レントゲン実習 事前指導① デンタル・パノラマ撮影法 実習(現像方法確認)			
第14回	アルジネート印象採得 相互実習 上顎全顎				第14回	放射線学 レントゲン実習 事前指導② デンタル・パノラマ撮影法 実習			
第15回	模型材料の取り扱い・模型作製の基礎知識 (マネキン実習:印象採得・石膏注入)				第15回	回転切削器具 講義・スケッチ			

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	歯科診療補助論	単位数	6	選 択 必 修	必修
			歯科診療補助法Ⅱ	時間数	120		
担当教員	本山 晃代			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		
実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	歯科診療所 勤務(4年)						
実務経験と授 業	専門的な歯科診療補助業務のための知識と技術を養う。						
学期区分	前期	金曜日 1・2時限		講義室等	基礎実習室・実習室		
	後期	木曜日 1・2時限		授業形式	講義・実習		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・DHとして必要な責任感、社会人としての社会性を理解し実践できる。(理解・実践力)				実技試験、筆記試験、身支度、提出課題、出席状況、			
・治療に必要な器材を選択し、術式に沿っての準備と補助ができる。(技能)				平常学習態度			
・自己にとって何が課題であるかを自覚し、改善しようとする。(態度・志向性)							
授業概要				教科書			
・器具・器材の種類、特性、用途を理解する。				歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 医歯薬出版(必携)			
・各治療に必要な器材を選択し、術式を説明できる。				参考書			
・救急蘇生について説明し、ダミーで実践できる。				歯科衛生士のための最新歯科用語辞典			
・安全に歯科診療の補助を行うため、患者の全身状態を把握できる。				ポケットマニュアル第2版			
履修上の 注意事項	・実習の際は、身だしなみを整えた状態で授業開始時間までに着席していること。身だしなみが整っていない場合は遅刻扱いとする。						
	・実習に欠席しても、原則的に補講は行わないため、必ず実習に出席すること。						
	・(実技試験受験資格)全ての実習を受講した者が得られる。						
	・(筆記試験受験資格)全ての実技試験を合格した者が得られる。						
	・実技試験不合格者は、単位不認定とするが、筆記試験当日の出席は認められる。※再試は行わない						
授業の計画							
〈前期〉				〈後期〉			
第1回	直接法修復(コンポジットレジン修復)講義、マネキン実習、術式レポート書き方説明、術式レポート作成			第1回	相互実習(共同動作)		
第2回	直接法修復(レジン添加型グラスアイオノマーセメント修復)講義、マネキン実習、術式レポート作成			第2回	模型相互実習・術式確認(CR、麻酔抜髄、根管充填)		
第3回	間接法修復(メタルインレー)講義、マネキン実習、術式レポート作成			第3回	間接法修復 術式確認 相互実習(印象採得)		
第4回	歯内療法における薬剤の基礎知識、麻酔抜髄における歯科診療補助、綿栓作製実習			第4回	プロビジョナルレストレーション作製実習 臼歯部 筆積み法セメント除去		
第5回	根管治療、根管充填 マネキン実習			第5回	X線撮影における歯科診療補助		
第6回	保存修復・歯内療法における器材準備 実技試験			第6回	口腔外科器具スケッチ		
第7回	ホワイトニング講義、術式、術式レポート作成 特別講義「インプラント概論」			第7回	嚢胞摘出術・歯根端切除術・歯槽骨整形術 術式・使用器具・術後指導		
第8回	滅菌グローブ・ガウンの着脱、局所麻酔・替刃メス・縫合メスの準備と片付け、止血処置法の理解			第8回	小帯切除中・インプラント手術(構造理解含む) 術式・使用器具・術後指導		
第9回	普通抜歯・埋伏抜歯 術式、使用器具の理解、術式レポート作成			第9回	小児歯科診療における診療補助(乳歯冠修復)、術式レポート作成		
第10回	外科器具・小手術 基材準備 実技試験			第10回	可撤式矯正装置・固定式矯正装置の補助と指導		
第11回	支台築造講義、クラウン・ブリッジ(生活歯)治療、コア連合印象採得、装着後の患者指導、術式レポート作成			第11回	矯正治療時の診療補助、器材の理解(バンド合着、ダイレクトボンディング法、ブラケット装置の撤去)		
第12回	シリコーン印象材の取り扱い実習			第12回	臨床検査・検体検査・救急救命処置		
第13回	全部床義歯・部分床義歯治療 術式 使用器具の理解、義歯の取り扱い等の患者指導、患者指導レポート作成			第13回	全身疾患を有する患者への対応①		
第14回	義歯作製に必要な器材・義歯の取り扱い等の患者指導の中間試験			第14回	全身疾患を有する患者への対応②		
第15回	術前検査の補助(臨床検査、浸麻準備実習・救急蘇生法実習の事前学習)			第15回	総復習		

シラバス

授業科目 区分	専門科目	担当科目	歯科診療補助論	単位数	2	選択 必修	必修
			歯科診療補助法Ⅲ	時間数	30		
担当教員	本山 晃代			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	3年		
実務家教員 としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	歯科診療所 勤務(4年)						
実務経験と 授 業	将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な専門性の高い歯科診療補助法の知識と技術を養う。						
学期区分	前期	集中講義		講義室等	普通教室③		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・歯科医療の高度化に伴い、歯科衛生士としての専門性を発揮できる確かな知識を修得する。				・出席状況、筆記試験、授業態度			
授業概要				教科書			
・臨床実習で学んだことを振り返りながら、1・2年次で学習した内容を再度確認し、知識を確かなものにする。 ・歯科臨床の場でチーム医療の実践に必要な態度・知識・技術を身につける。				歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論、歯科補綴学、歯科矯正学、小児歯科学、保存修復学・歯内療法学、口腔外科学・歯科麻酔学、歯科材料学			
				参考書			
				年度別 歯科衛生士国家試験問題集			
履修上の 注意事項							
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	総論・滅菌、消毒・共同動作について						
第2回	模型材料・合着、接着材について						
第3回	印象材・歯冠修復材・仮封材						
第4回	保存修復における歯科診療補助						
第5回	補綴治療における歯科診療補助						
第6回	口腔外科における歯科診療補助						
第7回	矯正治療における歯科診療補助						
第8回	小児歯科における歯科診療補助						
第9回	中間試験						
第10回	高齢者治療における歯科診療補助						
第11回	エックス線写真撮影における歯科診療補助						
第12回	臨床検査・救急救命処置						
第13回	障害者歯科における歯科診療補助						
第14回	まとめ						
第15回	筆記試験						

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	歯科診療補助論 歯科診療補助法Ⅱ	単位数	6	選択 必修	必修
				時間数	120		
担当教員	栗田 和成			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		
実務家教員 としての経歴	歯科診療所 勤務(2年)						
	歯科診療所 開業(S54年8月～現在に至る)						
	ノーベルバイオケア社 インプラント指導医						
学期区分	前期	特別講義		講義室等	基礎実習室		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
様々なライフステージにおける歯科医療に対応するため、専門性の高い歯科診療補助法の知識と技術および態度を理解する。				レポート			
授業概要				参考書			
・インプラントの構造 ・インプラントの基礎知識 ・インプラント埋入前の歯周組織のマネジメント、口腔内管理 ・インプラントオペに関わるアシスタントワーク ・インプラントメンテナンスに関わる歯科衛生士としての役割 ・インプラント部病変への対応				歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 医歯薬出版(株)			
				歯科衛生学シリーズ口腔外科学・歯科麻酔学 第2版 医歯薬出版(株)			
				歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学 医歯薬出版(株)			
				歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学 医歯薬出版(株)			
履修上の 注意事項							
授業の計画							
特別講義 『口腔インプラント概論』							

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	歯科診療補助論	単位数	6	選択 必修	必修
			歯科診療補助法Ⅱ	時間数	120		
担当教員	奥山 秀樹			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		
実務家教員 としての経歴	歯科大学 歯学部 補綴学教室 勤務(3年)						
	総合病院 歯科口腔外科 勤務(S60.10～現在に至る)						
	日本老年歯科医学会評議員・指導医・専門医・認定医						
	長野県障害者歯科相談医、歯科医師臨床研修医指導医、日本静脈経腸栄養学会認定歯科医						
学期区分	前期	特別講義		講義室等	基礎実習室		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
様々なライフステージにおける歯科医療に対応するため、専門性の高い歯科診療補助法の知識と技術および態度を理解する。				レポート			
授業概要				参考書			
・要介護者の状況や口腔内について				歯科衛生士学シリーズ 歯科診療補助論 医歯薬出版(株)			
・要介護者に対する訪問歯科診療				歯科衛生士学シリーズ 高齢者歯科学 医歯薬出版(株)			
・摂食嚥下障害とリハビリについて				歯科衛生士学シリーズ 障害者歯科学 医歯薬出版(株)			
・歯科衛生士としての役割				歯科衛生士学シリーズ口腔外科学・歯科麻酔学第2版 医歯薬出版(株)			
・口腔ケアについて				歯科衛生士学シリーズ 保存修復学・歯内療法学 医歯薬出版(株)			
・介護保険について				歯科衛生士学シリーズ 歯科補綴学 医歯薬出版(株)			
履修上の 注意事項							
授業の計画							
特別講義 『訪問歯科診療概論』			2コマ				

シラバス

授業科目 区分	専門分野	担当科目	歯科診療補助論	単位数	2	選択 必修	必修
			歯科材料学	時間数	30		
担当教員	本山 晃代			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員 としての経 歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	歯科診療所 勤務(4年)						
実務経験と 授 業	将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯科材料の理工学的性質および取り扱いを習得する。						
学期区分	前期	水曜日 1時限		講義室等	普通教室①、基礎実習室		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・歯科材料の理工学的性質および取り扱いを習得し、将来、頻繁に取り扱う 歯科材料に慣れ親しんでもらう。 ・材料の添付文書の内容を理解し、守れる。				出席状況、提出課題、授業態度、筆記試験			
授業概要				教科書			
・教科書を中心に講義を行うが、歯科材料に関わる動画上映も行う。 ・確認テストで授業内容のポイントを復習してもらう。 ・実際に材料を練るなどして、材料に触れて理解を深める。				歯科衛生学シリーズ 歯科材料学 医歯薬出版株式会社			
				参考書			
履修上の 注意事項	都度、授業中に教科書やノートに理解に必要と思えることを記入し、家庭学習にて勉強内容をまとめる。						
授業の計画							
〈後期〉							
第1回	総論①						
第2回	総論②						
第3回	歯科材料の基礎知識(種類、所要性質、基本的性質、練和、接着、取り扱い)						
第4回	成型修復材1(グラスアイオノマーセメント)、確認テスト①						
第5回	成型修復用材2(コンポジットレジン)、確認テスト②						
第6回	印象材1(アルジネート印象材、寒天印象材)、確認テスト③						
第7回	印象材2(ゴム質印象材、酸化亜鉛ユージノール印象材、モデリングコンパウンド)、確認テスト④						
第8回	模型用材料(普通石膏、硬質石膏、超硬質石膏)、確認テスト⑤						
第9回	合着材・接着材1(合着材)、確認テスト⑥						
第10回	合着材・接着材2(接着剤)、確認テスト⑦						
第11回	暫間修復材・仮着用セメント、確認テスト⑧						
第12回	仮封材、確認テスト⑨						
第13回	その他の歯科材料1(ワックス、金属、セラミックス)、確認テスト⑩						
第14回	その他の歯科材料2(義歯用材料、インプラント用材料)、確認テスト⑪						
第15回	歯科衛生にかかわる材料(歯面研磨材、小窩裂溝充填材、口腔清掃用具)、確認テスト⑫						

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	歯科診療補助論		単位数	2	選択 必修	必修
			臨床検査・救急蘇生法		時間数	30		
担当教員	横林 敏夫			受講学科	歯科衛生士学科			
				学 年	2年			
実務家教員 としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の通り実務経験がある。							
	大学病院 歯科口腔外科 勤務(11年)							
	総合病院 歯科口腔外科 勤務(31年)							
	歯学博士 日本口腔外科学会認定医 日本口腔外科学会指導医							
実務経験と 授 業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯科麻酔の基本的知識と、救急措置・心肺蘇生の技術を養う。							
学期区分	前期	月曜日 3時限			講義室等	普通教室②		
	後期				授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
・歯科衛生士に必要な臨床検査基準値を理解する。 ・歯科麻酔の基本的知識を学び、救急措置・心肺蘇生の方法を実践できるようにする。					・出席			
					・中間試験			
					・定期試験			
授業概要					教科書			
・臨床検査の基本的知識と病気を持つ患者に対応する上で必要な最低限の態度と技能について、講義形式で学ぶ。 ・歯科麻酔及び救急措置の実習を行う。					歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版			
					歯科衛生学シリーズ 臨床検査 全身管理と救急蘇生			
履修上の 注意事項								
授業の計画								
〈前期〉								
第1回	臨床検査とは、画像検査							
第2回	生体検査 (生理機能検査)①							
第3回	生体検査 (生理機能検査)②							
第4回	検体検査 ①							
第5回	検体検査 ②							
第6回	検体検査 ③							
第7回	口腔領域の臨床検査、摂食嚥下関連の検査							
第8回	臨床検査小テスト ・歯科麻酔							
第9回	救急蘇生法 歯科治療における全身的偶発症①							
第10回	歯科治療時における全身偶発症②							
第11回	歯科治療時における全身偶発症③							
第12回	歯科治療時における全身偶発症④							
第13回	救急蘇生法の実際							
第14回	実習							
第15回	実習							

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	臨地実習(臨床実習を含む)	単位数	7	選択 必修	必修
			臨床実習Ⅰ	時間数	315		
担当教員	指導教員			受講学科	歯科衛生士学科		
	担任			学 年	2年		
実務家教員 としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	宮本	歯科診療所 勤務(5年)					
	本山	歯科診療所 勤務(4年)					
実務経験と 授 業							
学期区分	前期			講義室等	臨床実習施設		
	後期	月・火・水・金曜日(日程表による)		授業形式	臨地実習		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・既習の歯科衛生業務を実践と結びつけながら理解を深め、実践能力を養うために、歯科臨床の場を通して歯科衛生士として必要な知識、技能および態度を身につける。				出席			
				実習態度			
				課題の達成度			
				総合的に評価する。			
授業概要				教科書			
・診療室の管理、歯科衛生業務の現場を学ぶ。 ・直接患者と接することにより、患者の全人的理解や医療の倫理観を 培い、医療人としての姿勢を学ぶ。				歯科衛生士学シリーズ教本			
				参考書			
				新人歯科衛生士・歯科助手 ポケットマニュアル 第2版			
履修上の 注意事項	・遅刻・早退・欠席等による実習時間不足分は実習生自ら申し出、補実習をご依頼申しあげること。 ・出席に関する確認印を必ず受けること。						
実習の計画							
〈後期〉							
評価項目			評価内容				
知識・技能	基礎的知識	臨床現場で必要な知識が身についている。					
		清潔、不潔の区別ができている。					
		診療の流れや手順を理解できている。					
	歯科診療補助	患者様に合わせた誘導ができる。					
		器具器材、歯科材料、薬品の使用目的を理解し、適切な準備と取り扱いができる。					
	歯科保健指導	口腔清掃用具の種類や使用目的を理解している。					
		抜歯後の注意を指導できる。					
歯科予防処置	患者様の口腔状況を把握できる。						

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	臨地実習(臨床実習を含む)	単位数	9	選 択 必 修	必 修
			臨床実習Ⅱ	時間数	405		
担当教員	指導教員			受講学科	歯科衛生士学科		
	担任			学 年	3年		
実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	宮本	歯科診療所 勤務(5年)					
	本山	歯科診療所 勤務(4年)					
実務経験と授 業							
学期区分	前期	月・火・水・木・金曜日(日程表による)			講義室等	臨床実習施設	
	後期	月・火・水・木・金曜日(日程表による)			授業形式	臨地実習	
実習のねらい、目標					成績評価の方法		
・歯科衛生業務を修得するために、歯科診療の場を通して歯科衛生士として必要な応用的・専門的知識、臨床応用的技能を身につける。					出席		
					実習態度		
					課題の達成度		
					総合的に評価する。		
実習概要					教科書		
・臨床の場における環境整備、感染予防を実践する。 ・治療の流れを把握した上で歯科診療の介助、補助を行う。 ・患者管理を目的とした歯科予防処置、歯科保健指導を実践する。					歯科衛生学シリーズ教本		
					歯科衛生士国試対策集		
					参考書		
					新人歯科衛生士・歯科助手ポケットマニュアル		
履修上の注意事項	・遅刻・早退・欠席等による実習時間不足分は、実習生自ら申し出、補実習をご依頼申しあげること。 ・出席に関する確認印を必ず受けること。						
実習の計画							
評価項目			評価内容				
知識・技能	応用的・専門的知識		全身的な疾患の症状や治療法をまとめることができる。				
			全身的な疾患を有する患者様の歯科診療時に注意する点を理解している。				
			症例ごとの診療の流れや手順を理解できている。				
臨床応用テクニック（技能）	歯科診療補助		様々な患者様の誘導や配慮ができる。				
			症例ごとの診療の準備ができる。				
			診療の補助をタイミングよく行える。				
	歯科保健指導		症例にあった保健指導を適切に行える。				
			口腔清掃用具や歯磨剤などの使用法を正しく説明できる。				
	歯科予防処置		プロービング、スケーリング、PMTCなどの術式、注意事項をまとめることができる。				
			う蝕予防処置の術式や注意事項をまとめることができる。				
	指導者からの課題レポート		臨床過程において得た情報をまとめ、内容と要点を簡潔に記述している。				
適切な文章表現を用いた客観的記述がされている。							

シラバス

授 業 科 目 区 分	専門分野	担当科目	臨地実習(臨床実習を含む)		単位数	4	選 択 必 修	必修
			臨地実習		時間数	180		
担当教員	実習指導者				受講学科	歯科衛生士学科		
	担任				学 年	3年		
実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。							
	本山	歯科診療所 勤務(4年)						
	宮本	歯科診療所 勤務(5年)						
実務経験と授 業								
学期区分	前期				講義室等	臨地実習施設		
	後期	月・火・水・木・金曜日(日程表による)			授業形式	臨地実習		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
・歯科衛生業務を修得するために、地域保健活動などの場を通して 歯科衛生士として必要な知識、技術及び態度を身につける。					出席 実習態度 課題の達成度 総合的に評価する。			
授業概要					教科書			
・対象者への口腔衛生活動を円滑に展開するために、心身の発達 や学習段階、日常生活行動などを理解し、その対応方法を学ぶ。					歯科衛生学シリーズ教本 歯科衛生士国試対策集			
・医療従事者を目指す者として、自発的な行動と利用者の方に対する 対応を学ぶ。					参考書			
履修上の 注意事項	・遅刻・早退・欠席等により実習時間に不足がある場合、単位不認定となる。							
	・出席に関する確認印を必ず受けること。							
実 習 の 計 画								
〈後 期〉								
1	実習計画作成		実習内容の検討、自己目標・目的の構成					
2	実習施設への折衝		実習施設への連絡、内容の検討、打合せ、オリエンテーション					
3	実習計画の具体化		実習テーマに即した各自の必要備品の作成、事前学習					
4	実習施設において		基本的社会行動の実施					
実習施設での利用者対応								
実習先での口腔関連実習(各自作成テーマに沿う)								
7	報告書作成		実習内容のまとめ、自己テーマに対する分析・考察					
8	実習報告		実習における考察					
9	まとめ		反省、自己分析					

評価項目	評価内容
マナー	会話の相手に応じた言葉遣いをする。
	実習中の私語を慎む。
取組み(積極性・意欲)	実習終了後の自己評価と改善策の検討ができる。
コミュニケーション	グループ内の作業に協力する。
	対象者と好ましい人間関係を築くことができる。

シラバス

授 業 科 目 区 分	選択必修 分野	担当科目	総合科目 看護学	単位数	2	選択 必修	必修
				時間数	30		
担当教員	田中 文子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		
実務家教員と としての経歴	看護師の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	病院 勤務(6年)						
	看護師養成校 専任教員(3年)						
	高齢者福祉施設 勤務(H19年3月～現在に至る)						
実務経験と授 業	・看護師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な現代社会のニーズに応えられる看護上の知識と技術を養う。						
学期区分	前期	金曜日 4時限		講義室等	普通教室②		
	後期			授業形式	講義・演習		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・看護の本質を理解し、現代社会のニーズに応えられる看護上の知識、技術を修得する。				定期試験			
授業概要				教科書			
・テキストによる講義と演習 ・バイタル測定の実習				歯科衛生士のための看護学大意 第4版			
				医歯薬出版株式会社			
				参考書			
履修上の 注意事項							
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	国民衛生の動向・健康とは何か…健康の定義を考える						
第2回	看護とは… 看護の始まりと変遷						
第3回	接遇とコミュニケーションの重要性を知る 演習						
第4回	歯科衛生士が知っておくべき看護技術・観察の重要性						
第5回	バイタルサインとは何か						
第6回	バイタルサインの測定 演習						
第7回	患者への支援 認知症を知ろう						
第8回	患者の安全と安楽						
第9回	摂食の意味と重要性						
第10回	与薬の種類とその注意事項						
第11回	記録の重要性と意味						
第12回	救急時の看護						
第13回	口腔ケアの重要性について・感染症対策						
第14回	感染症対策について						
第15回	地域医療活動における歯科衛生士の仕事						

シラバス

授 業 科 目 区 分	選択必修 分野	担当科目	総合科目 リハビリテーション論	単位数	2	選 択 必修	必修
				時間数	30		
担当教員	小寺 和伸			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		
実務家教員と しての経歴	理学療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	病院、介護老人保健施設、訪問リハビリテーション(計12年)						
	デイサービス管理業務(H29.～現在に至る)						
実務経験と 授 業	理学療法士の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要なリハビリテーションの基本知識と技術を養う。						
学期区分	前期	木曜日 1、2時限(隔週)		講義室等	普通教室②		
	後期			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・リハビリテーションの視点を学び、歯科衛生士として何ができるのかを知る(考える)。				・出席状況			
				・授業態度			
				・レポート課題			
				・単位認定試験			
				教科書			
				リハビリテーション総論 改訂第4版			
				診断と治療社			
授業概要				参考書			
講義と実技				歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学 医歯薬出版株式会社			
履修上の 注意事項	動きやすい服装(パンツスタイル)						
授業の計画							
〈前期〉							
第1回	リハビリテーション概論1						
第2回	リハビリテーション概論2						
第3回	実技 (身体の動かし方)						
第4回	実技 (車椅子、移乗)						
第5回	障害別リハビリテーション						
第6回	疾患別リハビリテーション						
第7回	第1～6回の復習等						
第8回	リハビリ体験(実技)						
第9回	ステージ別リハビリ						
第10回	歯科衛生士とリハビリ						
第11回	身体介助方法(実技) (身体介助方法)						
第12回	フレイル、筋トレ、栄養						
第13回	グループワーク						
第14回	発表等						
第15回	まとめ						

シラバス

授 業 科 目 区 分	選択必修 分野	担当科目	総合科目		単位数	2	選 択 必 修	必修
			口腔機能・摂食機能訓練法		時間数	30		
担当教員	村元 美穂				受講学科	歯科衛生士学科		
					学 年	2年		
実務家教員と しての経歴	言語聴覚士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。							
	病院リハビリテーション科勤務(15年)							
	通所介護施設勤務(3年)／訪問看護施設勤務(5年)							
	介護老人保健施設勤務(1年)							
実務経験と 授 業	言語聴覚士の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な口腔機能および摂食機能訓練法の知識を養う。							
学期区分	前期	火曜日 1時限			講義室等	3号館 5階ホール		
	後期				授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
・摂食・嚥下障害の基礎的な身体構造と機能を学び身につける。 ・摂食・嚥下リハビリテーションのチームアプローチを理解する。 ・嚥下評価や訓練について理解する。 ・口腔アセスメントの重要性と摂食機能療法を学び、歯科衛生士の役割となる嚥下間接・直接訓練について理解する。					筆記試験、出席、授業態度、課題の到達度において総合的に評価する。			
					教科書			
					歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版 医歯薬出版株式会社			
授業概要					参考書			
講義・演習								
履修上の 注意事項								
授業の計画								
〈前期〉								
第1回	リハビリテーションと摂食嚥下リハビリテーション・リハビリテーション制度について							
第2回	摂食嚥下に関わる構造							
第3回	摂食嚥下に関わる機能							
第4回	摂食嚥下機能の発達と老嚥について							
第5回	摂食嚥下機能評価について ースクリーニングテストー							
第6回	摂食嚥下機能評価について ー嚥下造影と嚥下内視鏡①ー							
第7回	摂食嚥下機能評価について ー嚥下造影と嚥下内視鏡②ー							
第8回	栄養管理と嚥下調整食分類2013							
第9回	摂食嚥下機能のリスクマネジメント							
第10回	老年期にみられる摂食嚥下機能の特徴と対応について							
第11回	摂食嚥下障害のリハビリテーションについて ー間接訓練ー							
第12回	摂食嚥下障害のリハビリテーションについて ー直接訓練ー							
第13回	歯科衛生士と摂食嚥下障害							
第14回	国家試験対策①							
第15回	国家試験対策②							

シラバス

授 業 科 目 区 分	選択必修 分野	担当科目	総合科目	単位数	2	選択 必修	必修
			医療保険事務	時間数	30		
担当教員	岡部 あゆ美			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員と しての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	歯科診療所 勤務(4年)						
実務経験と 授 業	歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な保険請求のしくみについて知識を養う。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室①		
	後期	火曜日 4時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
保険請求のしくみを学ぶ。 歯科用略語を学ぶ。				定期試験・小テスト・提出物・授業態度・出席状況			
授業概要				教科書			
1 社会保険制度について理解し、医療保障制度を用いた保険請求のしくみを理解する。 2 診療録作成・読み取り・診療報酬請求の概要を理解する。				デンタルスタッフのための 歯科保健診療ハンドブック			
				参考書			
				新人歯科衛生士・歯科助手 ポケットマニュアル			
履修上の注 意事項							
授 業 の 計 画							
〈前 期〉							
第1回	医療保険事務概要						
第2回	コミュニケーションスキルアップセミナー①						
第3回	コミュニケーションスキルアップセミナー②						
第4回	コミュニケーションスキルアップセミナー③						
第5回	口腔内審査						
第6回	医療保障						
第7回	各種保険						
第8回	傷病名・略称						
第9回	1号カルテ転記						
第10回	保険請求						
第11回	ヨシダ レセコンセミナー①						
第12回	ヨシダ レセコンセミナー②						
第13回	まとめ						
第14回	レセプト名・略語 小テスト						
第15回	定期試験						

シラバス

授 業 科 目 区 分	選択必修 分野	担当科目	総合科目 歯科総合	単位数	14	選択 必修	必修
				時間数	210		
担当教員	各教科担当講師			受講学科	歯科衛生士学科		
	(宮崎 栄理子／宮本 佑美／岡部 あゆ美／本山 晃代)			学 年	3年		
実務家教員と としての経歴							
実務経験と 授 業	歯科衛生士の実務経験を活かし、歯科衛生士を目指す者に必要な知識と技術技能について総括を行う。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室③		
	後期	集中講義(日程表による)		授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
歯科衛生士として必要な知識および技能についての総括を行う。				出席 授業態度 定期試験			
授業概要				教科書			
・既習の知識を実践と結びつけながら理解を深め、定着を図るために 歯科衛生士国家試験過去問題等による演習を取り入れる。				歯科衛生学シリーズ			
				参考書			
				ポイントチェック①②③④⑤ 歯科衛生士国家試験対策教本			
履修上の 注意事項							
授 業 の 計 画							
〈後 期〉							
①	人体(歯・口腔を除く)の構造と機能(人体の構造・人体の機能と構成成分)						
②	歯・口腔の構造と機能(歯と口腔の機能・歯と口腔の機能と組成)						
③	疾病の成り立ちおよび回復過程の促進(病院と病態・感染と免疫・生体と薬物)						
④	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み						
	(総論、口腔清掃、う蝕の予防、歯周病の予防、その他の歯科疾患の予防、歯科疾患の疫学と歯科保健統計、地域歯科保健活動、環境と社会と健康、保健・医療・福祉の制度、栄養と食生活の基礎)						
⑤	歯科衛生士概論(歯科衛生士とその業務)						
⑥	臨床歯科医学						
	(歯科臨床の基礎、歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療、歯の欠損と治療、顎・口腔領域の疾患と治療、不正咬合と治療、小児の理解と歯科治療、高齢者の理解と歯科治療、障害者の理解と歯科治療)						
⑦	歯科予防処置論(総論、歯周病予防処置、う蝕予防処置)						
⑧	歯科保健指導論						
	(総論、歯科保健指導の基礎、口腔清掃指導法、生活指導、歯科衛生教育活動)						
⑨	歯科診療補助論						
	(総論、主要歯科材料の種類、取り扱いと管理、保存治療時の診療補助、補綴治療時の診療補助、口腔外科治療時の診療補助、矯正歯科治療時の診療補助、小児歯科治療時の診療補助、高齢者治療時の診療補助、障害者治療時の診療補助、エックス線写真撮影時の診療補助、臨床検査法、救急救命処置)						